戦え!! イクサー1

ICZER·ONE

レモンピープル
1月増刊号

戦え!! イクサー1

あまとりあ社

CONTENTS

◎戦え!! イクサー1
FILM STORY Part A ―― 3
●レコード & キャラクター
グッズ紹介 ―― 18
❖戦え!! イクサー1
メカニック大図鑑 ―― 19
●スタッフイラスト集 ―― 29
●原画 & 設定資料 ―― 35
♣スタッフ座談会 ―― 46
●プレゼントのお知らせ ―― 50
◎戦え!! イクサー1
FILM STORY Part B ―― 51
★描き下ろしコミック　阿乱 霊
FIGHT!! ICZER-ONE ―― 75

カバーイラスト■平野俊弘／本猪木浩明

雑誌コード09644-1

定価850円

ICZER-ONE

STUFF

CAST

VIDEOSTAFF

STUFF

編集■スタジオアッシュ
辻 壮一
新堂 眞
谷 典子

デザイン■ISTVAN
宮本義貴
須藤愛美

アニメーションフォトグラフ■中島秋則

協力■(株)A·I·C
(株)ユーメックス
(株)ツクダホビー

戦え!! イクサー1
レモンピープル1月号増刊
1986年1月15日発行
定価850円

発行者■水野遥介
発行所■〒165 東京都中野区松が丘
2-21-14
あまとりあ社
電話03(386)3151

IZZER ONE

戦え!! イクサー1

あまとりあ社

雑誌コード09644-1

定価850円

イラスト＝平野 俊弘

Fight! IZZER-ONE Film Story Part A

ころんだ男が気がつくとその前に人影が

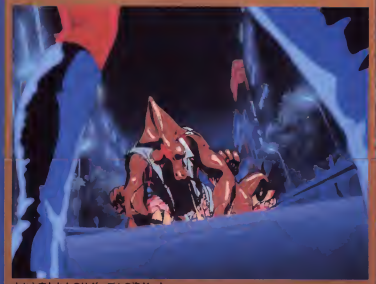
人気のない夜の街に男の足音が響く

立ちふさがるその姿は少女のようだが……

爆発するかのように顔がくずれる

男の顔が絶望に激しくゆがむ

人気のなくなった深夜の街。そこに、何者かに追われて必死で逃げる男の姿があった。よろめき倒れた男の前に立ちふさがる追跡者の影。男は絶望の表情をうかべると、突然ふくれあがるかのようにして怪物へと変身し、追跡者に襲いかかっていった。しかし、その者は手から発した輝きで怪物を消しさると、再び夜の闇へと消えていった。



中から表われたのはヴェデムの姿だった

なお逃げようとするヴェデムにせまっていく少女

手にスパークが走りエネルギーが蓄積される

粒々になったヴェデムを後に少女は去る

原作 ■ 阿乱 霊

ストレートに言って、とても面白いものが出来たんじゃないかと思います。僕自身もアニメファンなもんですから、他のオリジナルビデオなんかも見てますけど、その中でも25分というのは時間は短かいですけど、密度が高いというか、ギッシリとつまっているという感じがしましたね。最初に絵コンテを見せてもらった時に思った以上に出来が良かったですね。ストーリーも特撮なんかの定石をキチンとおさえてあるし、原作者というより一人のアニメファンとしてこれからも楽しませてもらうつもりです。

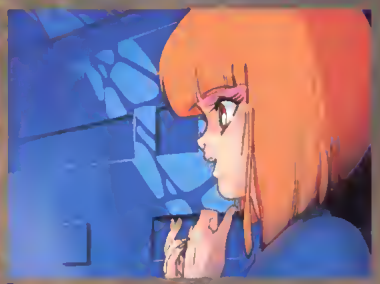
プロデューサー■三浦 亨

作品を作っていく作業上のことではいままでのものと変りないのですが、内容的に平野俊弘という一人の人間を中心にして、アニメーターを作家的な形であつかったという点でいままでとは違った作品づくりになったのではないかと思います。こういった機会をあたえてくれた久保書店や、それをもりあげてくれた他のスタッフには非常に感謝しています。

続けて2本目も制作していくことになりましたが、こういった内容の作品は他に例がありませんから、平野氏にはこの分野でおもいっきり活躍してもらいたいですね。

「こんなキレイな星に住むの私たち」「じきにね」

美しくかがやく地球の姿



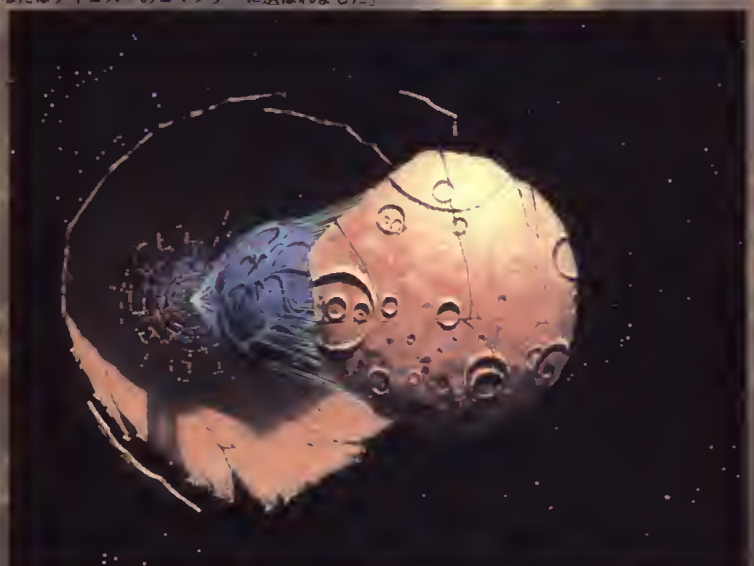
「うれしい！」感激するセピア

サー・ハイオレットの間

「コバルト！」「は、はい！」「サー・バイオレットがお呼びです」「は、すぐまいります」

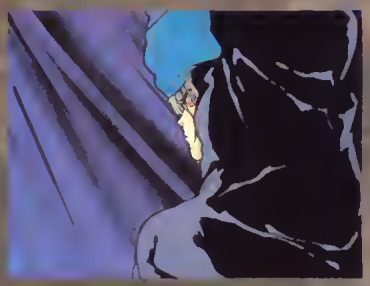
地球をわずかにはなれた宇宙空間。そこでは恐るべき計画が実行にうつされようとしていた。人類をはるかに超えた力を持ちながらも放浪を続ける異星人クトゥルフ。彼等が地球を新たな移住先として選び、侵略しようと狙っているのだ。だがその彼等の前に立ちふさがろうという謎の人物がいた——それがイクサー1（ワン）なのだ。

「あなたはディロス」のコマンダーに選ばれました」



「ますパートナーを探すこと　もしそれが阻止されたら　コバルト！　あなたが[illegible]イクサー[illegible]

「私が！　光栄ですサー・バイオレット」



「パートナーと同調したイクサー1は我々にとって手強い敵

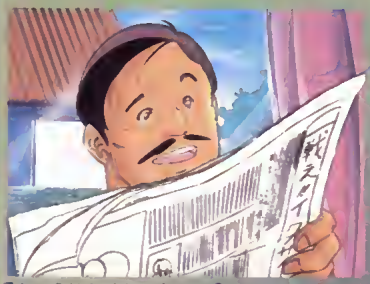
「しかし、あの星に出撃するのですか？」「イクサー1の存在が確認されたのです」

加納渚――ごく普通の生活を送っていた平凡な少女。いつものように学校にかようために通る、見なれた道。そこで彼女は奇妙なかっこうをした少女に出会う。言葉もかわさぬこの出会いが、やがて渚を地球の運命を左右するような存在にしていくとは彼女自身思いもよらぬことであった。

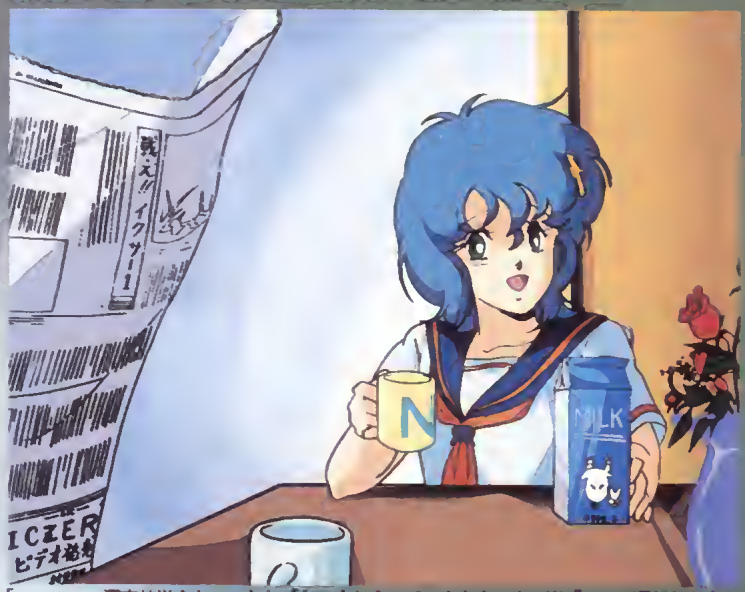
「なぎさ……なぎさ……」彼女呼ぶかすかな声が……だが彼女はまだそれに気ずかない

「おはよ〜!!」キッチンにかけこむ渚

「きゃあ！　やば〜」目がさめた渚は寝坊したことに気づいて大さわぎである



「きのうはおそかったのか？」



「エヘヘ……深夜放送をちょっとね」「ちゃんと食べていきなさいよ、渚」「いい、遅刻したくないもん」

「いってきまーす！」

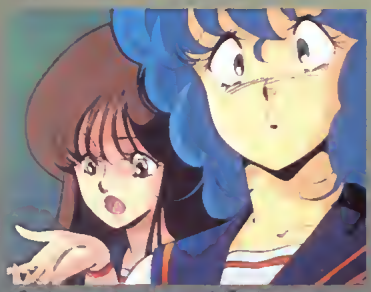
美術監督■中村　靖

平野さんのこの作品に対する世界観がしっかりしてたので、非常にやりやすかったですね。全体的には暗さというか、恐怖感みたいのを出すのがむずかしかったというところでしょうか。怪物の出てくる石碑みたいなものがたくさん浮いてる空間とかは、兼用がきかないんで描くのがたいへんでしたね。面白かったのは、サー・バイオレットとかの部屋ですね。ともかく、たいへん楽しい仕事でした。パート2があるということらしいですけど、次もぜひ参加してみたいと思います。

登校の途中で渚はかわった少女を見かける

微笑かけられて思わず微笑む渚

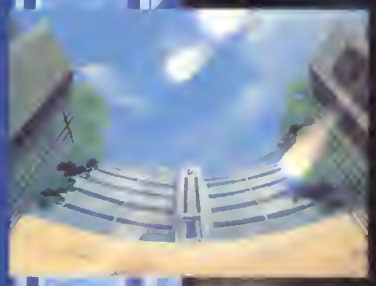
「渚！　なにしてんの？　遅刻するわよ」



「ほら、あれ…いない!?」「それどころじゃない!!」

木の上から渚を見守るイクサー1

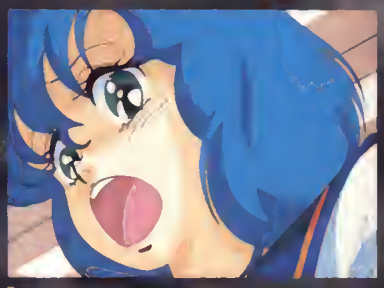
テストの際中、再び渚を呼ぶ声が頭の中で響いた



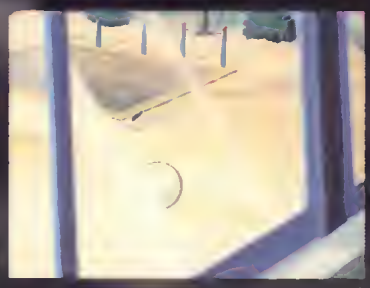
学校でテストが行われている際中、渚は恐しく様な体験を味わう。暗く、誰もいない教室で不気味な怪物が渚を襲う。渚は悲鳴をあげて助けを求めるが、たれも答えてはくれない。毒牙が目前にせまったとき

配を感じて渚を襲うのを

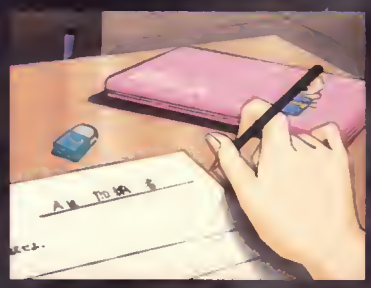
渚は再びもとの教室にも



「きゃあ！」

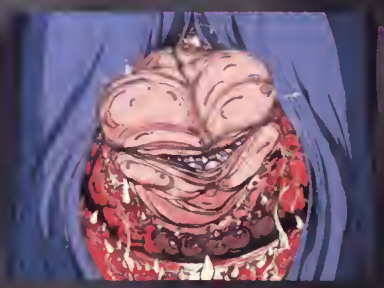


ひとりではずんでいたボールが渚めがけて！



おどろきのあまり渚は声も出ない

ガラスが割れた瞬間、渚の周囲は見なれぬ光景へと変貌していた



渚におどりかかる化物

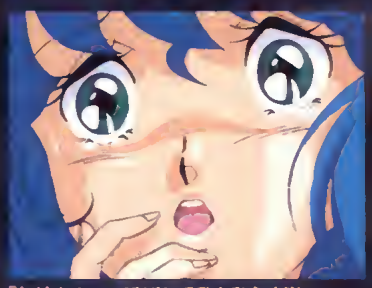
目の前で奇怪なものが音を立てていた

音響監督 本田保則

女の子が主人公という作品は、いままでにやったことがなかったので、僕がやってきたものの中ではかわった作品といえますね。音響的にはでてくるのが怪物たちですから、効果音も金属的なものじゃなく、ねとっとした植物的なものが中心でしたね。全体的には平野氏からの注文で60年代的な、なつかしい感じをいくぶん残しておいたわけです。今回はACT1ということで、話のほうもあまり人物的な芝居の部分がなかったのですが、ACT2ではそのへんを少し重視した感じでやってみたいと思っています。

髪の毛のようなものが渚をとらえ、その口が大きくひらかれたとき、イクサー1が表われた

イクサー1の気配に気づいて怪物は逃げていく



「加納さん!?」呼ばれて目をひらく渚

クラスメートの笑い声の中、1人困惑する渚

怪物だったはずの少女も不思議そうにふりかえる

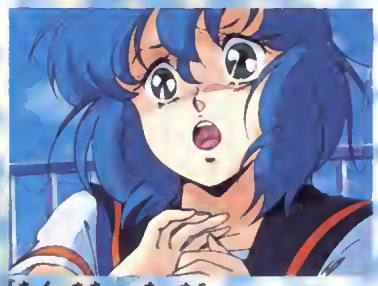
周囲は元の通りにもどっていた

撮影監督 ■ 新井隆文

一番苦労したのはタイトルのところでしたね。本当は黒バックにタイトルが出るだけだったんだけど、それじゃあつまらないっていうんであいう風にしたんです。『イクサー1』の場合、実作業に入るまでだいぶ時間があったんで、いろいろ透過光なんかも考えることが出来ましたから、普段はいきなり始めちゃうのが多いですからね。作品自体もよかったし、撮影としてもかなり高いレベルであがったと思います。パート2ももたぶんやることになると思いますが、そちらのほうでもまた新しい効果にチャレンジするつもりです。

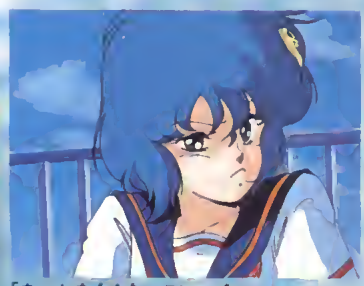
クラスメートのまみは渚のことを笑うのだった「おこるぞ！　まみ」「ごめん、ごめん」

「夢だったのかな……」



「あ！　ああ……ま、まみ……」

「こら、まみ！」



「あったまくんな、こいつ！」

昼休みの屋上。渚は自分におこった異様な出来事に考えこんでいた。そんな彼女を見て笑うクラスメートのまみに、渚が手をかけると彼女の顔に不気味な仮面が！屋上からつきおとされ、あわやというとき渚の体が空に浮んだ。彼女の危機を救ったのは朝出会った少女であった。だが、そんなことにも気ずかず、渚はあわてて逃げ出してた。

渚の周囲はいつの間にか従者たちの笑い声につつまれていた

渚にせまる不気味な従者たち

「きゃあ！」渚は屋上からつき落される

あわやというところでバリヤーが渚を救う

渚を救ったのは朝出会った少女であった

だがおびえる渚はあわてて逃げ出す

「だいじょうぶですか、渚？」

あっけにとられるイクサー1

屋上をにらみつけるが、すでに従者たちの姿はなかった

走りつかれて一息ついく渚

突然、周囲がゆがみ渚の体は壁にすいこまれていく

気絶した渚に従者たちが襲いかかろうと出現する

壁をぬけて渚が入りこんだのは暗黒の異空間であった

[illegible]た渚が一息つ[illegible]間、[illegible]るよ[illegible]渚の体を異[illegible]た。気絶した渚[illegible]姿を表[illegible]たち。だが、同時[illegible]さ[illegible]き渚を救った[illegible]女が再び出現して彼等の前に立ち[illegible]た。こう彼女こそ、クトゥレ[illegible]る強敵イ[illegible]サー[illegible]なのだ！

身にせまる危機も知らず気絶している渚

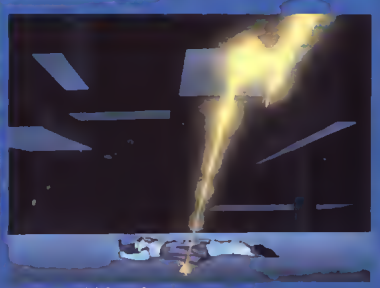
渚におそいかかろうとするレッツァ、だがその瞬間にその体は切りさかれる

音楽 ■ 渡辺宙明

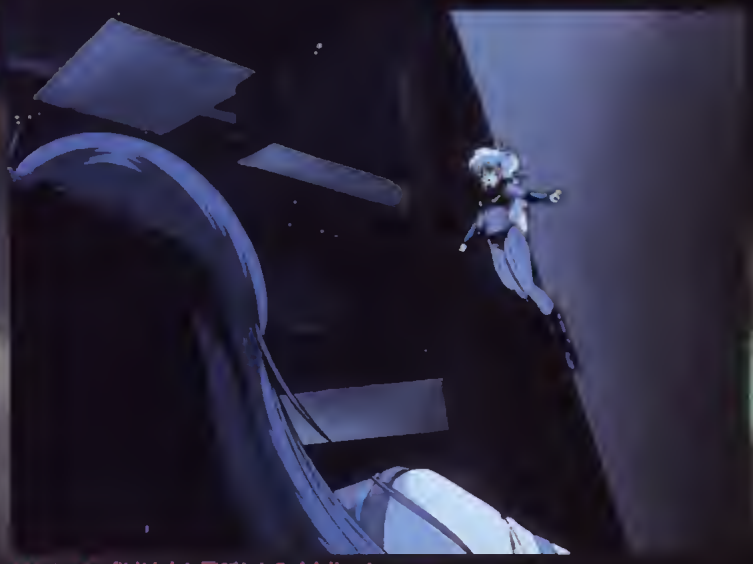
この「戦え!! イクサー1」では監督の平野さんからの注文で、いままでに僕が作ってきた曲の雰囲気をそのまま出してほしいということでした。作品自体も特撮ものなどの雰囲気を持っていたので、俗に宙明節などと呼ばれている僕の特徴を持たせた曲作りになっていますね。曲作りも普通BGMというとかなり短いものなんですが、BGMが1曲つつ聞けるようなちょっと長いものになっていたりして、変った作りになっています。そういった点では僕自身も楽しんでやることが出来た作品ですね。

イクサー1のシルエットが

消え去るレッツァ



渚の前に閃光が走り



「バアッ！」従者たちに飛びかかるイクサー１

ダァルエツァの体が真っ二つに裂ける

イクサー１のビーム

従者にせまるイクサー１、だが背後に…

別の気配がイクサー１を襲う

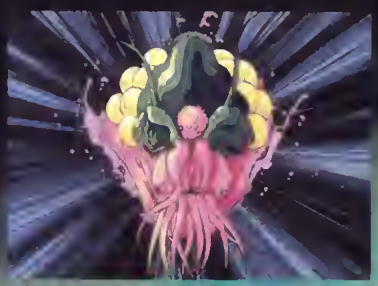
従者の画がくだけちっていく

イクサー１のパンチがうなる！

原画■戸田橋一郎

作画をしたこと自体は非常に楽しかったけれど、しんどかった作品でしたね。企画自体も面白かったし、メカのデザインもなかなか良かったですからね。ただ、ちょうど他の作品の作業とダブッてたりしたんで、そのへんが自分としては苦しかったというところですかね。全体的に作画のレベルも高かったし、僕のやったところはほどほどに良く出来てたんじゃないかと思います。パート2もあるそうですが、こんどは見る側になって期待させてもらいます。

ヒートサーベルをかまえるイクサー1

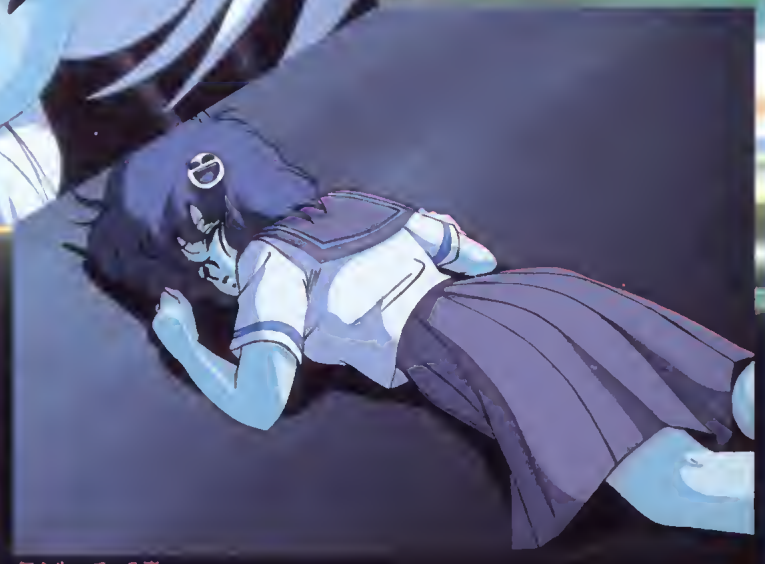


ダァルェツァの秘るべき生命力！

一閃のもとに両断されるダァルェツァ

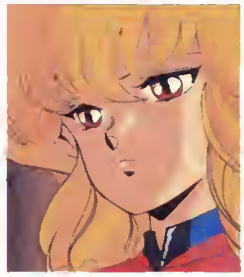
あざけるかのように逃げていくウェデム

イクサー1の表情に笑顔がもどる



気を失っている渚

戦え!! イクサー1
キャラクターグッズ紹介



サウンドトラック

東芝EMI ¥1500
LB15-5005

「戦え!! イクサー1」の世界を色どるBGMを担当するのは、特撮ヒーローものや、ロボットアニメなどの音楽でファンに有名な渡辺宙明氏。本来アニメのBGMといえば、シリーズで何度もつかわれるため、1分とか短かいものになると20~30秒ぐらいのものがほとんど。だから実際レコードにするときは、これをつないで2~3分の1つの曲にしてしまうという方法がとられている。けれど「イクサー1」の場合は単発のオリジナル作品ということもあって、最初から3分ぐらいにまとめて作ることが出来たというわけ。したがってこのサントラは本来BGM集なわけだけれども、イメージアルバム的にも聞けるというおもしろいものになっているのだ。おまけに曲数が少ないのが幸いして、いまはやりの45回転LPになっているので音質も最高! 宙明ファンならぜひとも一聴のレコードです。

フィギュア

株ツクダホビーより発売

ジャンボフィギュアで有名な㈱ツクダホビーから、渚とイクサー1のフィギュアが発売される。ただし、こちらはジャンボフィギュアじゃなく、普通のプラスチック製の組立式モデル。スケールも12分の1で、完成すると15㎝程度の大きさのもの。完成度はかなり高いもので、細部のディテールも平野氏のキャラクター設定の雰囲気を良く再現している。良く出来たキットなのであまり手を入れなくともかなりの完成度で仕上ってくれる。また手を入れるにしてもプラ製なので、作業もラクに行えるといえるだろう。価格の方も800円と、この手のものにしては手ごろといえそう。また、ジャンボフィギュアの方も発売されるとのこと。

でも、せっかく渚とイクサー1を出したんだから、イクサーロボとディロスも出して欲しいんですが、いかがなもんでしょうかねえ……?

プレゼントのお知らせ

「戦え!! イクサー1」
ビデオテープ
VHS 2名 ベータ1名

広告用ポスター
（平野・阿乱氏サイン入り）10名

「戦え!! イクサー1」メモパッド20名

さて、御覧の通り「戦え!! イクサー1」の関連商品も少しずつ出てきましたが、ここに紹介したほかにも商品の企画が進行中だそうですのでお楽しみに。なお、この本を買っていただいたみなさんに、㈱ユーメックス、㈱ツクダホビーからの御好意により、サウンドトラック、キャラクター、フィギュア、そして久保書店からビデオソフト、サイン入りポスターなどをプレゼントします。くわしくは50ページを御覧ください。

メカニックロボット大図鑑

戦え!!

イクサー1

ICZER·ONE

オールカラー

■監修・平野俊弘・本猪木浩明

完全図解
これが
富士一號だ!

定価480円

ゆけ！ぼくらの富士一號!! ディロスθをさがしつけろ！

CIGARETTE
MR.SLAIME
TDKDD

ミサイル発射！

ぼくらの街を破壊する、異星人クトゥルフの攻撃ロボット・ディロスθ。それを迎え撃ちのび陸上自衛隊の万能メカ・富士一號だ。富士一號の部に隠された強力な兵器なら――どんな敵でも一撃でやっつけることができる。ディロスθも一撃だ！

ふん射口に火がいっぱい

ふん射口に火がいっぱい

格納庫で待機する富士一號

発進の指令がくだった、作業員の指示で動き出す

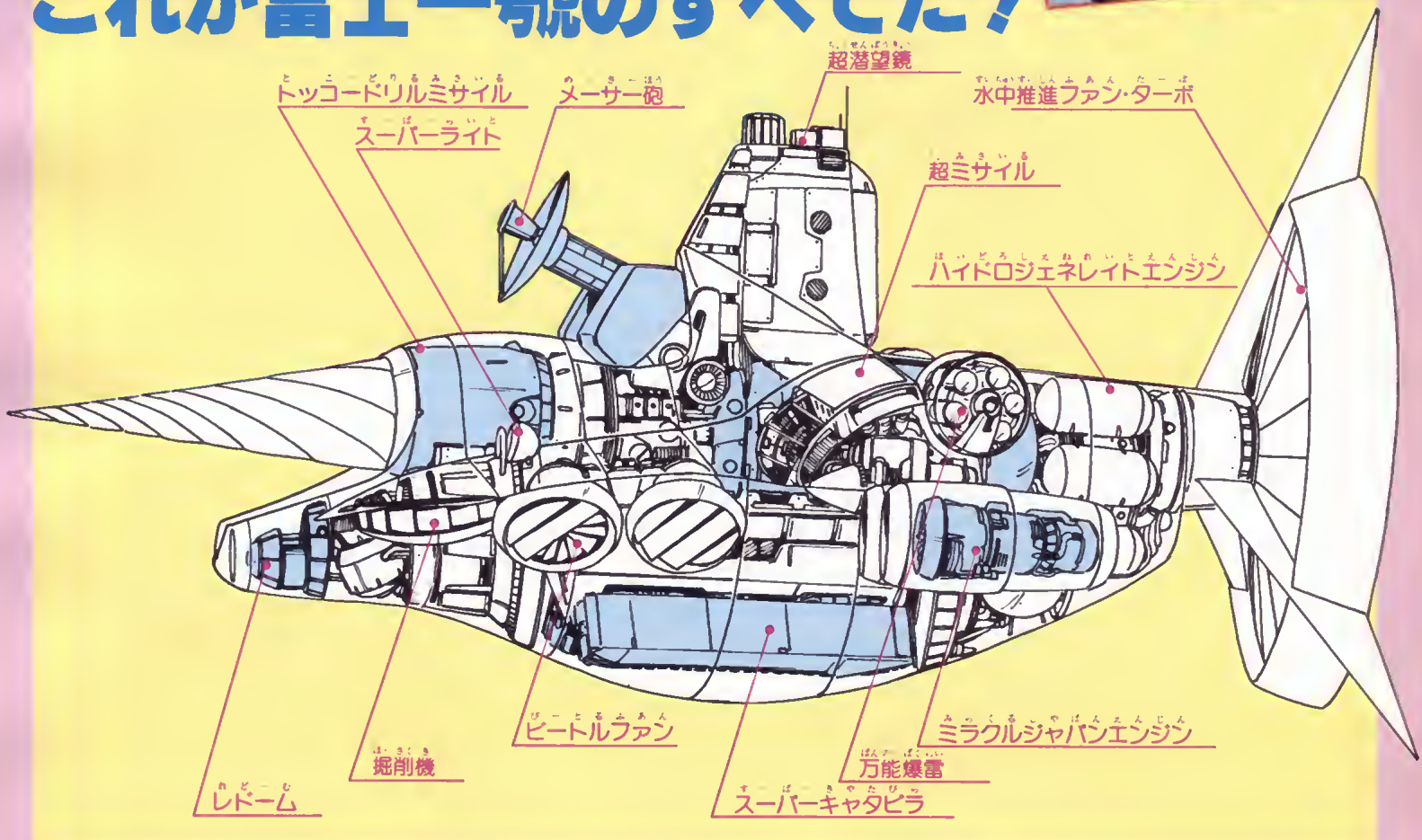
地下からエレベーターでせり上がってくる

富士の樹海をかきわけて富士一號の姿が！

富士山を背にした富士一號の勇姿

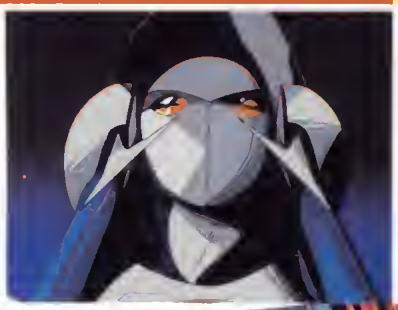
富士一号の必殺兵器がディロスに！

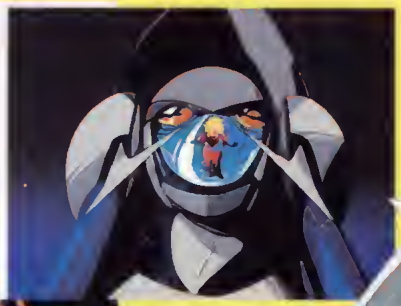
これが富士一號のすべてだ！



しかし、ディロスθにはぜんぜんきき目がなかったみたいで、逆にディロスθの一撃で富士一號は撃ち落されてしまった！
さよなら、富士一號!!
DOKAAAN!!
それは出動してからわずか89秒後のことであった
合掌！

いくさーろぼ イクサーロボ





頭部のコクピットにはイクサー1が搭乗し、ケーブルによって接続する

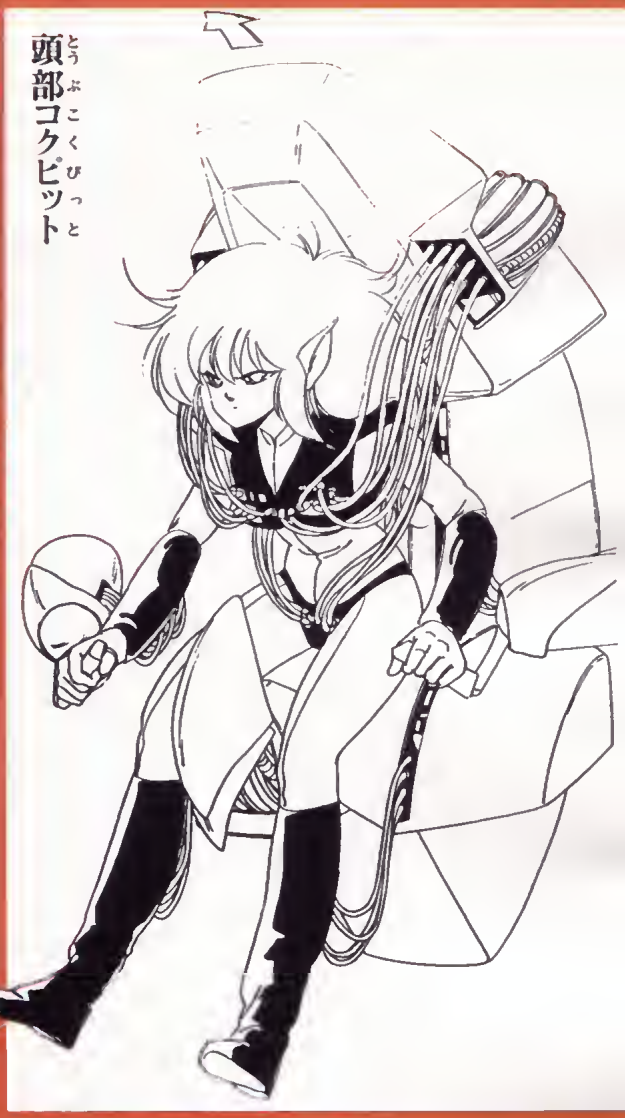
イクサー1の分身である、イクサーロボ。そのボディは、はかりしれない力を秘めており、イクサー1とそのパートナーが力を合せることによって能力を発揮することが出来るのだ。戦え!! イクサーロボ! その力のかぎり!

イクサーロボの足形

データー

身長＝38メートル　体重＝150トン　馬力＝測定不可能
武器＝イクサーアタック、イクサーパンチ
必殺わざ＝両手から発する巨力なビーム
頭部にイクサー1が乗り、胸部にはパートナーである渚が乗り込む。2人の意志が合ってこそ、初めてイクサーロボはそのパワーを発揮することができる。

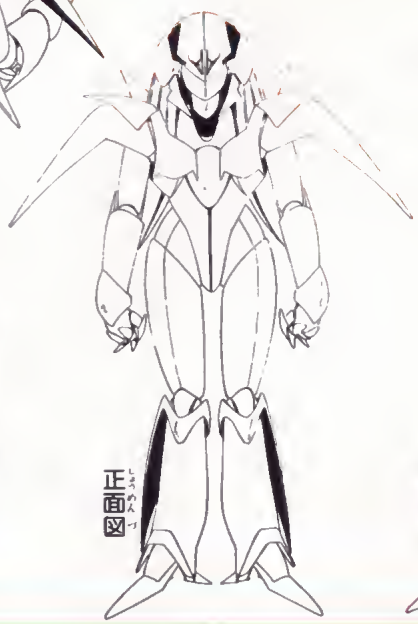
胸部コクピット



頭部コクピット

イクサーロボの胸部から発せられる吸引ビームによって、搭乗者はコクピットにあさまる

背面図

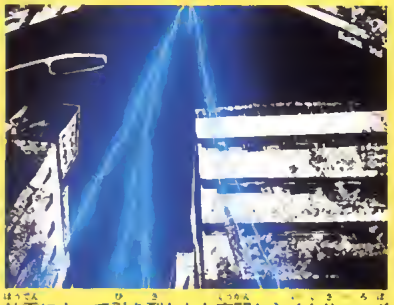


正面図

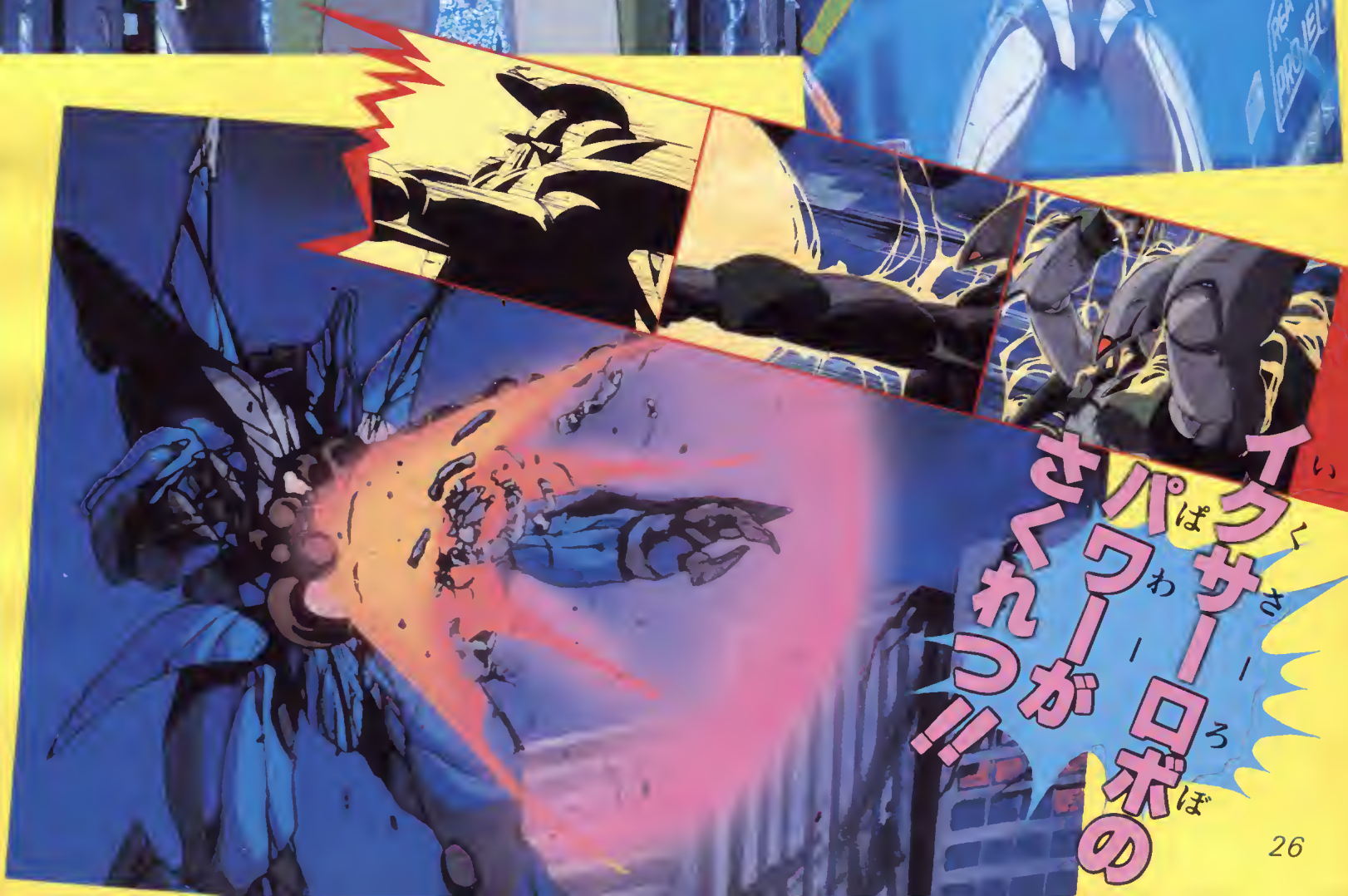
側面図

イクサーロボの登場だ！

空にエネルギーが放電現象をおこし始める



放電によって引き裂かれた空間からイクサーロボが



イクサーロボのパワーがさくれつ!!

でぃろすしーた

ディロスθ

異星人クトゥルフが、その発達した科学力を使って作り上げた攻撃用ロボット。そのパワーは地球上のいかなる兵器を持ってしても、対抗することすら出来ない。胸から発する強力なビームは、一撃であたり一面をガレキの山と化してしまう。

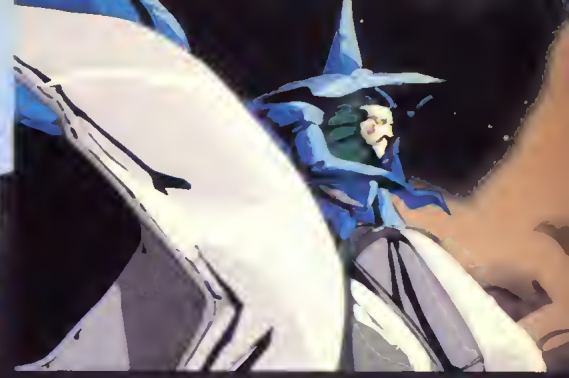
データー

身長＝40メートル　体重＝220トン
馬力＝1千5百万馬力　武器＝前面集中式レーザー砲
ディロスθは頭部に乗り込む1人のパイロットによって運用可能な巨大ロボットである。射出時には球形のカヴァーによっておおわれており、流星のごとく見せてカモフラージュされている。

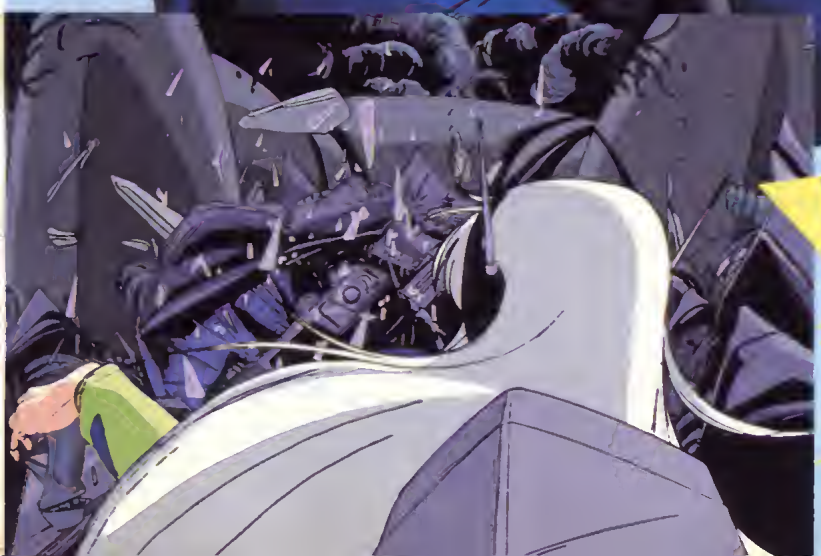
ディロスの足形

ディロスθの手にかかればビルなど一撃で破壊されてしまう

ディロスθの胸が光ると強力なレーザーが！



これがディロスθのパワーだ！



イクサーⅠのビームを胸にうけ、とどめの一撃を顔面にきめられた

戦え!!　イクサー1
スタッフイラスト集

イラスト＝垣野内成美

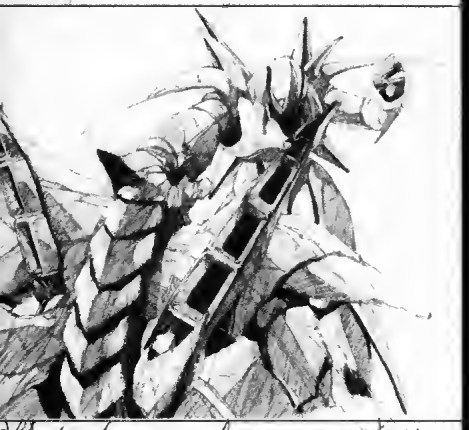
イラスト＝北爪宏幸

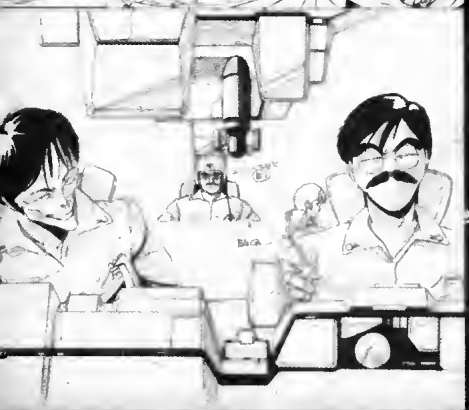
イラスト＝渡辺淳一

イラスト＝福島喜晴

イラスト＝ぬるちひるこ

イラスト＝本猪木浩明



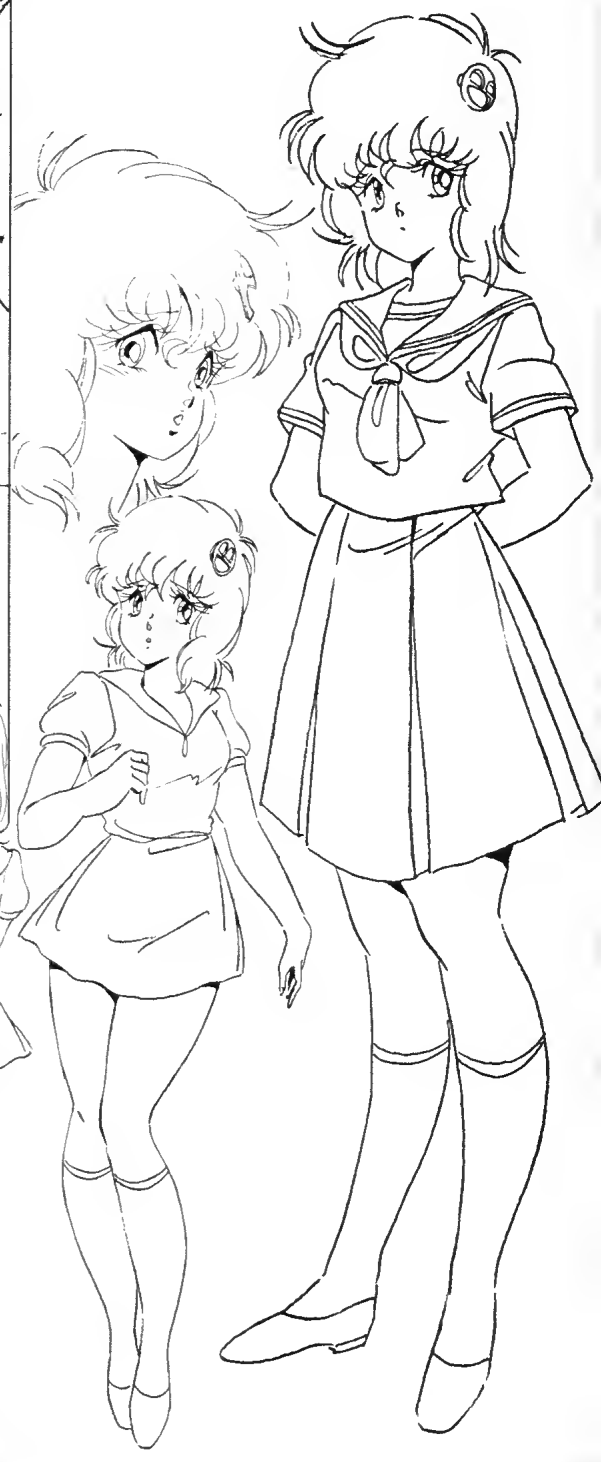


戦え!!イクサー1
原画&設定資料

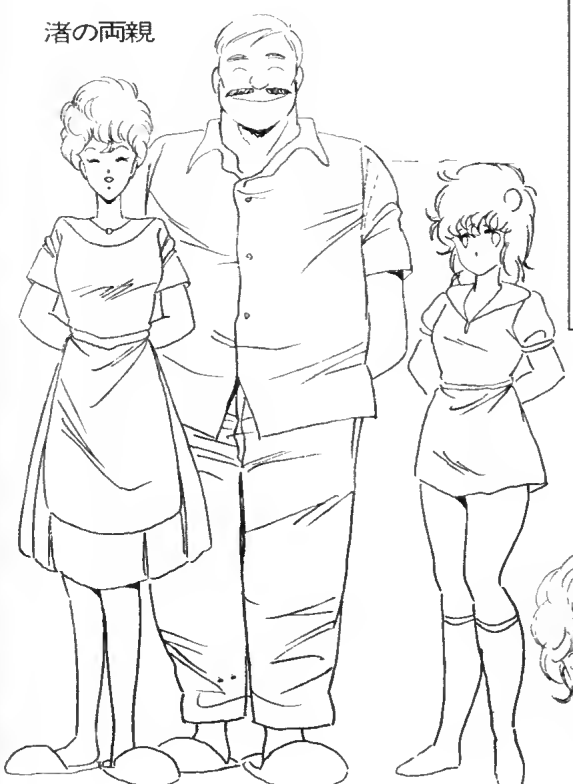
加納　渚

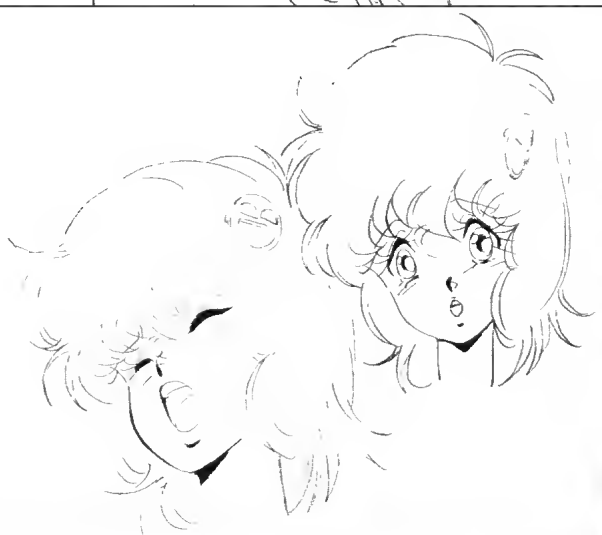
KANOW　NAGISA

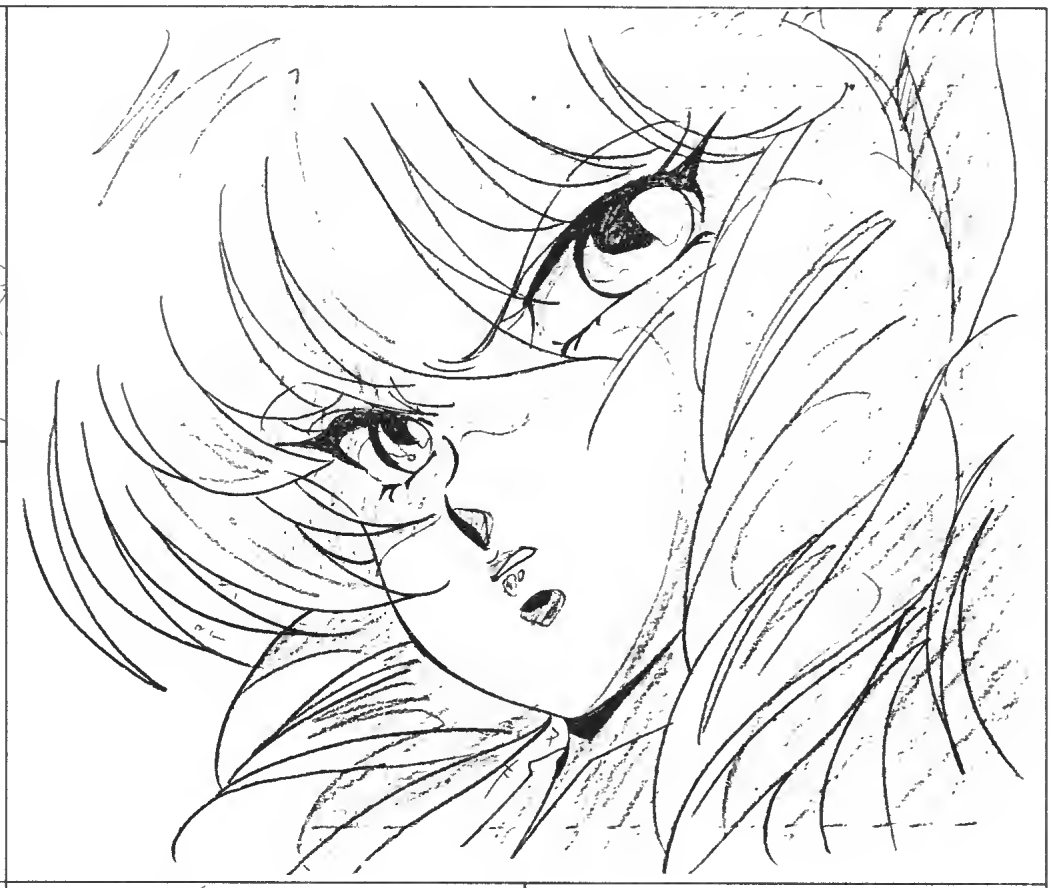
イクサー1のパートナーとして選ばれるまでは、ごく普通のどこにでもいそうな少女の1人であった。だが、クトゥルフからの魔手によって両親を殺され、彼女自身も危機にさらされながら、むりやりイクサー1の手助けをするはめになる。

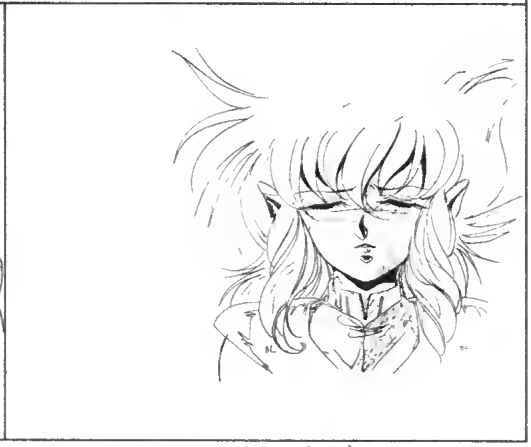


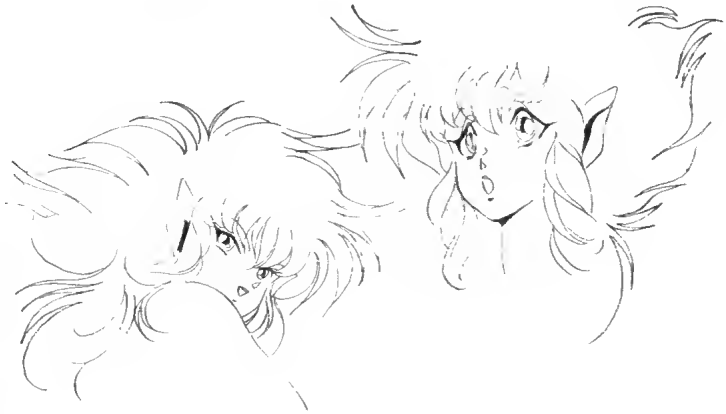
渚の両親







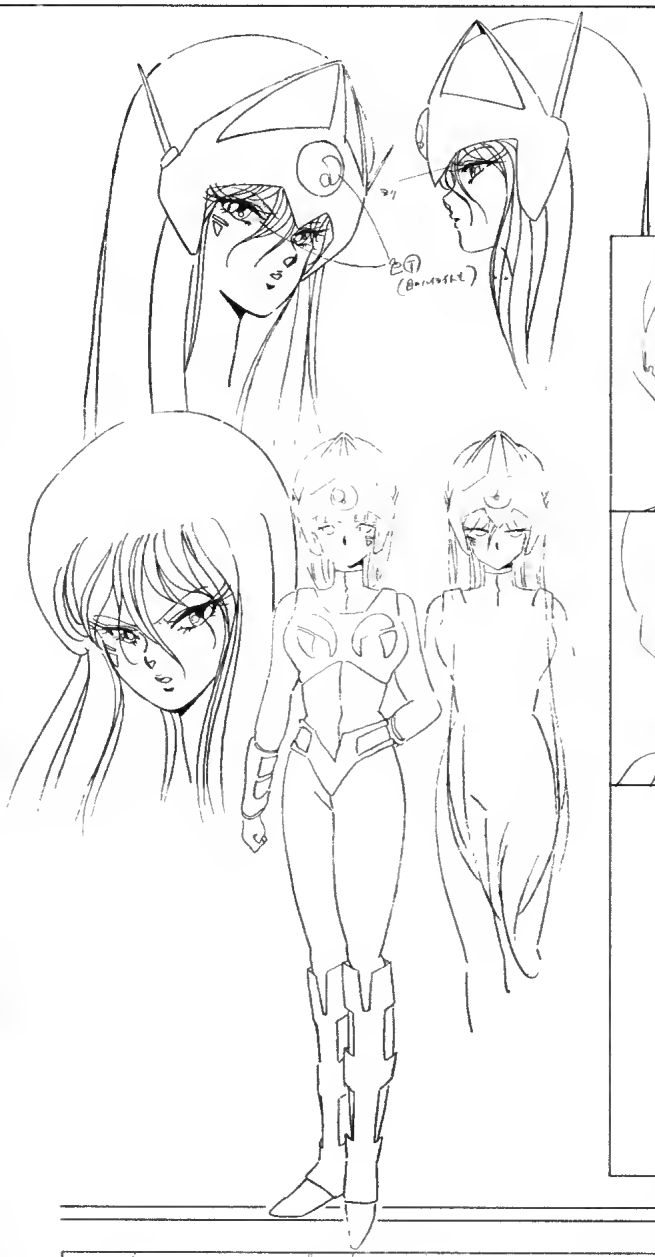




イクサー 1

ICZER-ONE

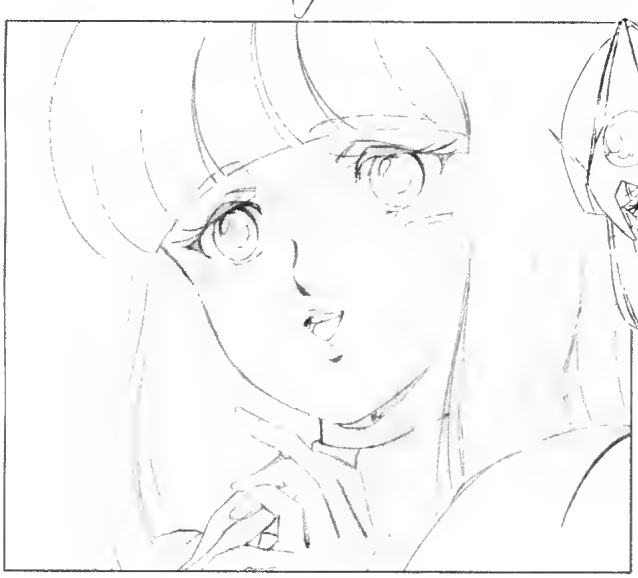
地球をクトゥルフの侵略の手から救うためにやってきた少女。超能力など人類ではおよびもつかない数々の能力を有しているが、その正体は明らかにされていない。力を発揮するためにはパートナーの協力が必要で、その相手として渚を選んだ。

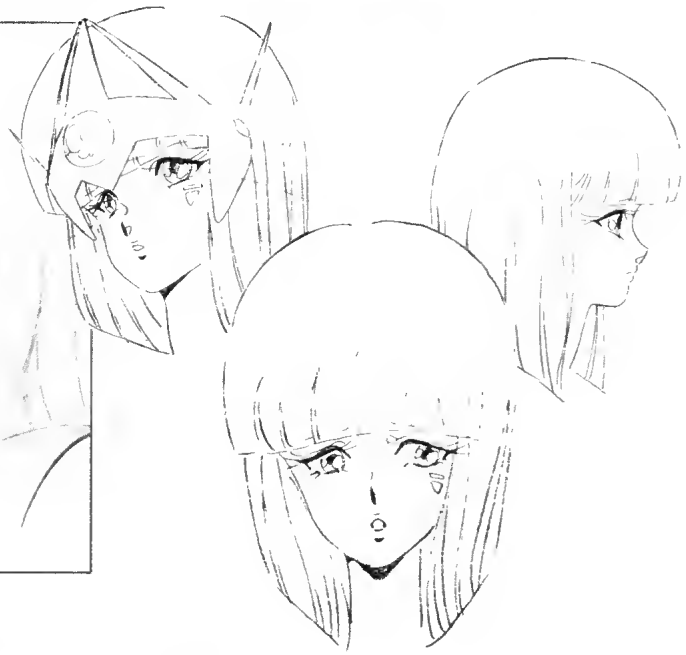


コバルト

COVALT

クトゥルフの戦闘下士官。サー・バイオレット直属の部下で、地球侵略のために巨大ロボ・ディロスθに乗り込んでくるが、イクサーロボと対決しそのパワーの前にやぶれ、あえなく散っていく。





セピア

CEPIA

コバルトと同じくクトゥルフの戦闘下士官。コバルトとは女同士ながら恋人のような関係であった。性格的にはおとなしそうな子であるが、コバルトを殺したイクサー1に対して復讐の鬼と化していく。

サー・バイオレット

SIR. VAIOLET

クトゥルフの司令官。ビッグゴールドからの司令をもとに、地球侵略作戦を実行に移していく。マントによって体をつつみ、その姿は男とも女とも知れず異様な雰囲気である。

ビッグ・ゴールド

BIG GOLD

異星人クトゥルフのリーダー。姿は幼女のようであるが、その眼元は異様にするどい。言葉をもたないため、その意志はテレパシーによって伝えられる。

ヴェデム

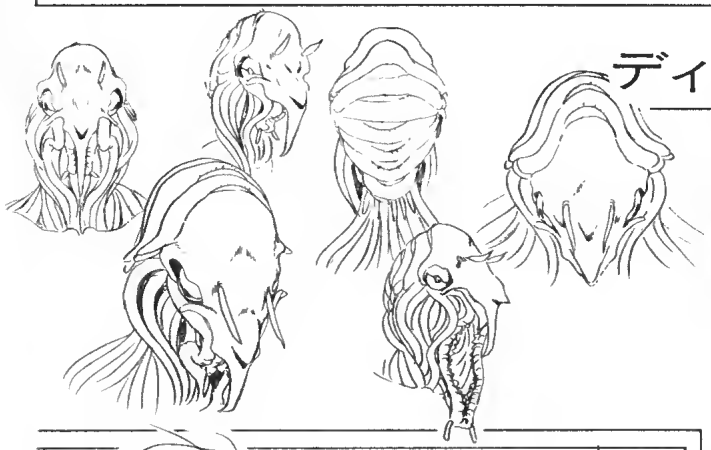
戦闘員というよりは怪物というべき者たちの一種。地球侵略のための先進部隊として人間に変化して侵入していたが、イクサー1によってことごとく倒されていった。

従者

意志を持たない命令に忠実な者たち。つねにサー・バイオレットのもとにひかえており、命令があれば戦闘員としても出動することもある。

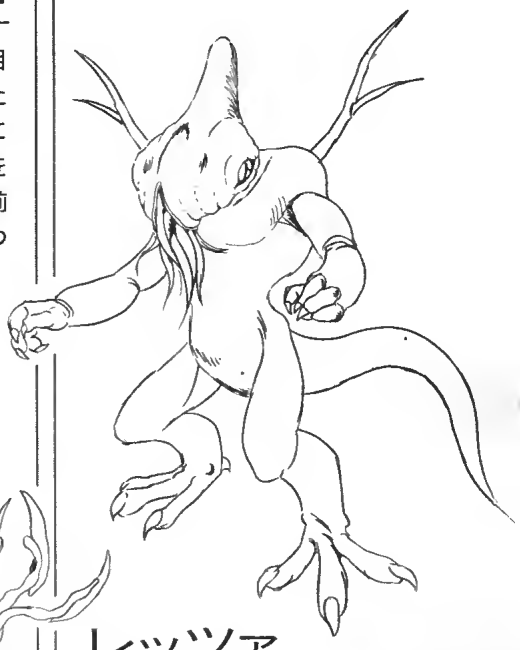
ダァルェツァ・オーゲス

異空間に引きずり込まれた渚を追ってやってきたイクサー1を襲う。一度はそのサーベルによって切りたおされるが、恐るべき生命力で再びイクサー1を襲うが、結局やられてしまう。



ディルウェッツェ

渚の両親にとりついて、彼女の目前でその正体をあらわす。口のあたりから伸びる触手によって、相手に寄生して意のままにあやつる。渚をその触手によって殺そうとする直前にイクサー1の手によって真っ二つにされる。



レッツァ

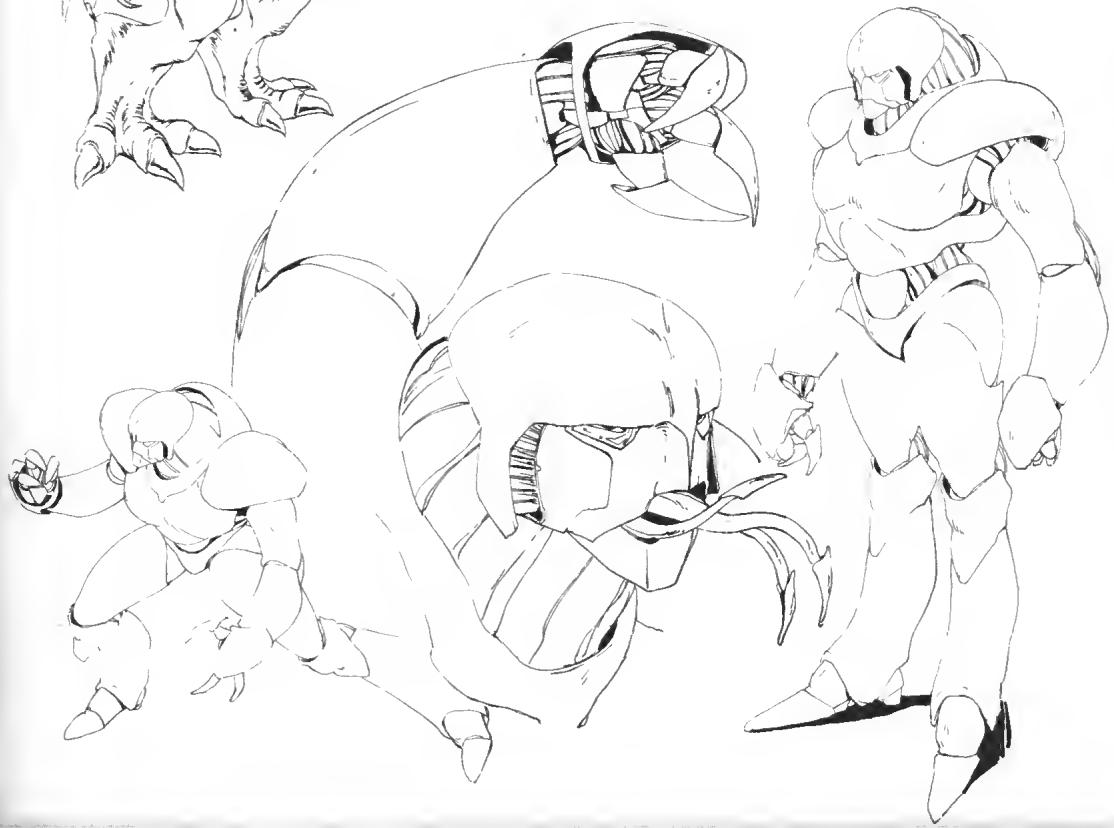
ダアルェツァと共に渚を襲おうとするが、渚にとびかかろうとした瞬間、イクサー1によってあえなくたおされる。

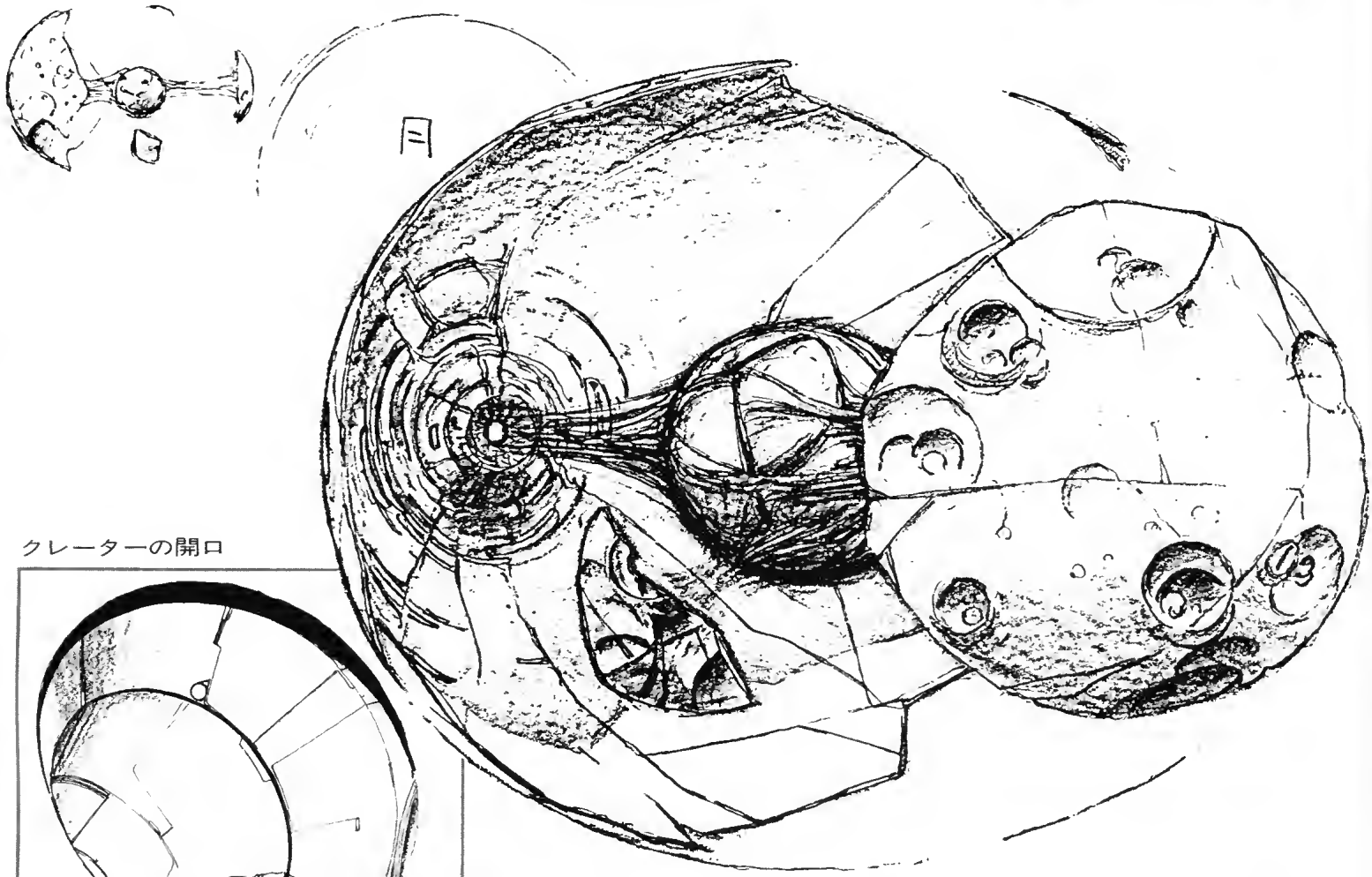
ヌグゥエンデルツェ

巨大な姿を持った怪物。渚の家に同化して彼女をその手で捕えるが、イクサー1の一撃に正体をあらわして死んでいく。

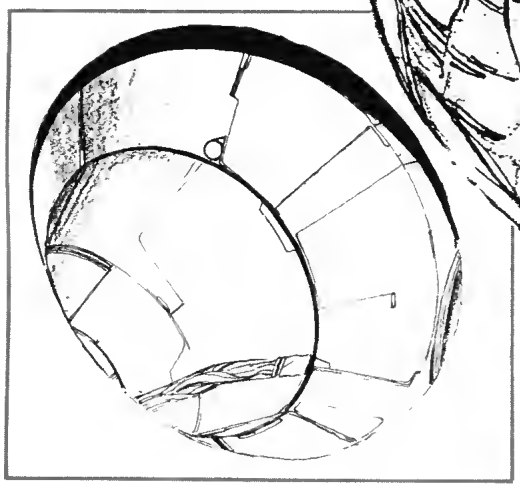
ボイド

体に装甲をまとった強力な怪物。こいつにはイクサー1の攻撃もまったく通じず、苦戦を強いられるが、内部が弱いのを見やぶられて、装甲のすき間に放たれたエネルギー攻撃によってやぶれさる。

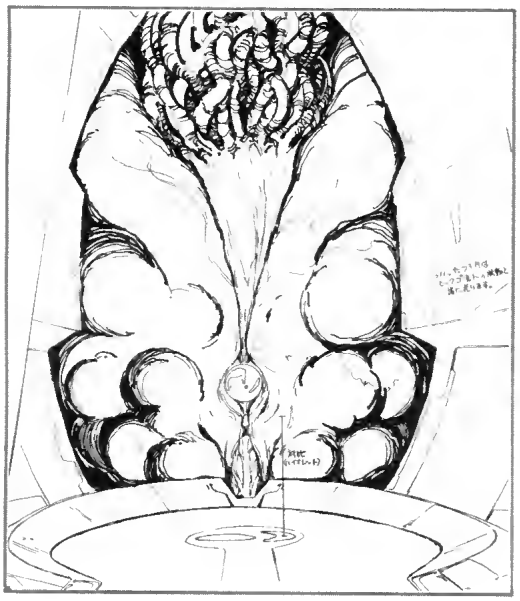




クレーターの開口

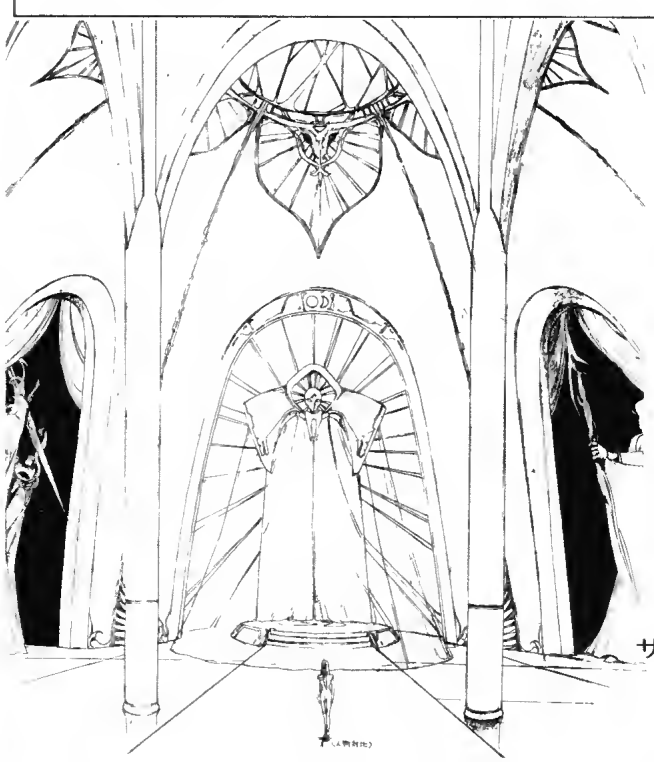


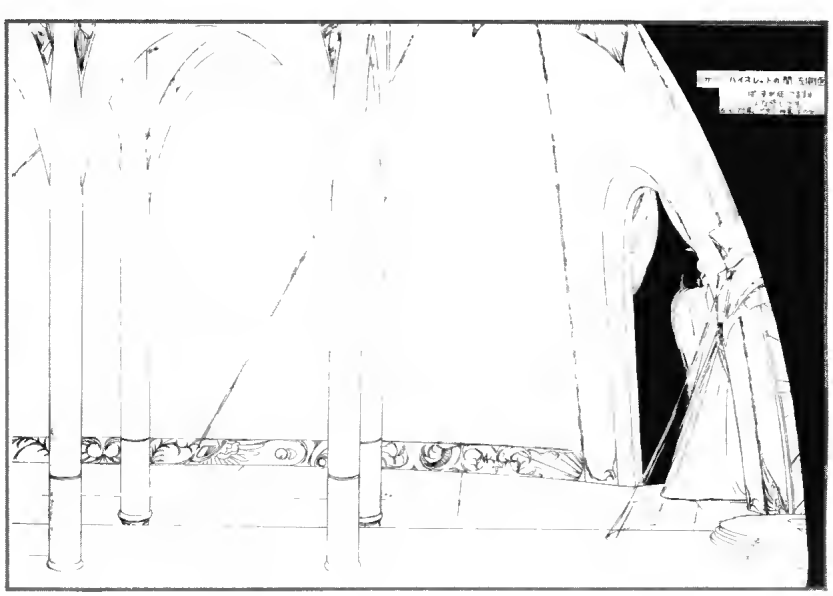
ビッグゴールドの間



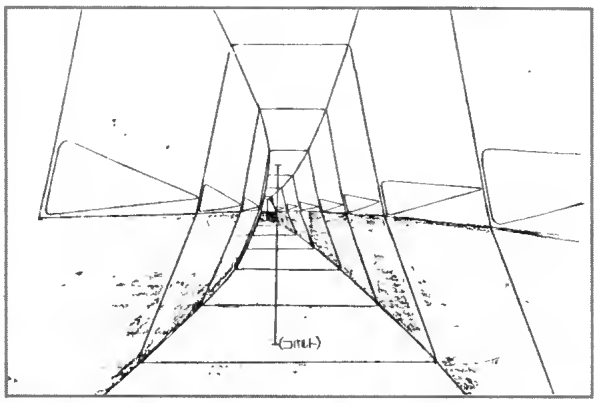
クトゥルフの宇宙船

クトゥルフの本拠地ともいえる、大型の宇宙船。玉子のような外観と構造を持っており、その姿は宇宙船としては不可解な感すらある。外部のクレーターの一部は、巨大ロボットの射出口などになっている。

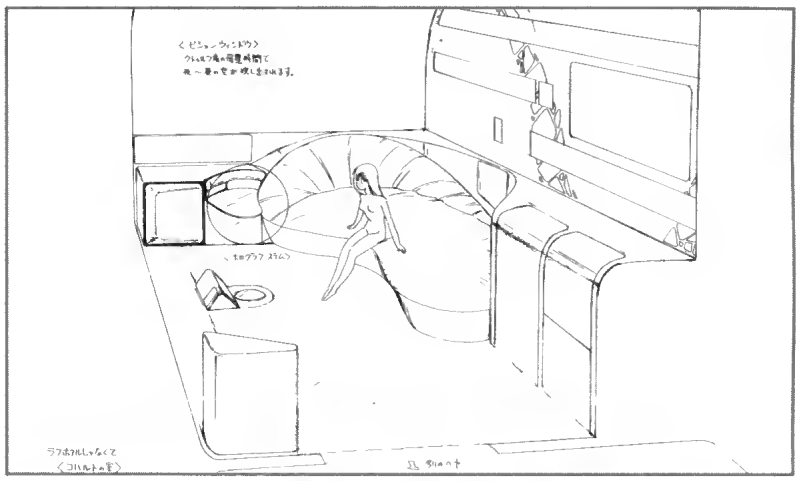




サー・バイオレットの間



通路



コバルトの寝室

異空間

クトゥルフの怪物たちが作り出す異った次元の空間。生命の存在感はなく、あたりには数多くの石碑が浮びならんでいる。ここでは怪物たちの能力も地球上より数段上のものとなる。

「戦え!! イクサー1」スタッフ座談会

今回は監督の平野俊弘氏以下、メインのスタッフに集まっていただいて、いろいろ「イクサー1」について思ったことなどを気軽に話し合ってもらいました。半分本気、半分冗談の入り交った座談会をお楽しみ下さい。

●出席者●
平野俊弘（監督）ひ
本猪木浩明（メカニックデザイン・原画）も
渡辺淳一（モンスターデザイン・原画）わ
垣野内成美（原画）か
北爪宏幸（〃）き
福島喜晴（〃）ふ
ぬるちひるこ（〃）ぬ
構成・辻　壮一

――「戦え!! イクサー1」も完成して、今日はメインスタッフのみなさんにお集りいただいたわけですが、それぞれにいろいろな話があるかと思います。

ふ「何もないよ(笑)。みんなアンケート用紙に書いといたから」
ひ「ひでえ(笑)」
か「もう忘れちゃったわよね、だいぶ前だから」
ふ「いまいち、みんなしゃべりませんねー」
か「あの辺なんか言いたそうね」
ひ「おれがいない時にはいろいろ言ってるんだよな(笑)」
ふ「北爪さん、ここでぱーっと何か……」
き「えっ？　なんですか」
ふ「いやー、ずっとだまってるから、なんか言って欲しいなーなんて」
き「うちの原画のやつが少し遅かったんで、申しわけありませんでした」
ひ「いえいえ」（一同爆笑）
き「僕をふくめて、かけもちでやったもんですから」
ふ「うーん」
か「なんか苦しんでますね(笑)」
ひ「いずらそうだね(笑)」
き「でも、なかなか良かったですね」
ふ「ぼくは途中で、ぴえろにカンズメになってたから」
ぬ「『エミ』やってたんだよね」
ふ「うん。おいら胸はって言っちゃう(笑)」

――みんな、かけもちのかけもちですね。（一同爆笑）

ひ「かけもちなしでやった人はいないよ(笑)」
き「あれ尺って、もう少し長くならないんですか？」
ひ「なりますよ、もう少しなら。ただセル枚数とかの問題でできなかったんですよ」
き「なるほど」
ぬ「富士一號のカットがもう少し欲しかったですね」
ひ「あれはあっけなかったでしょ」
か「あっという間で、かわいかったじゃない」
ふ「あのパイロットが良かったね」

――艦長のヘルメットに入ってる鳥居と富士山のマークが良かったですね。

ひ「あの艦長の役をやった人があの後、本当に死んじゃったんでまいってしまった」

ふ「やっぱりラストがちょっとねー。あわただしかったね。富士一號の発進シーンなんかあと20秒か30秒あったら良かったんじゃないかな」

も「20秒!? そんなに描いたら死んでしまう(笑)」

き「そう言えば不思議だったんですけど、イクサー1のサーベルはどっから出てくるんですか?」

ふ「あ、僕もそれ思った」

ひ「そのシーン描いたの福島君じゃない(笑)」

ふ「だってわかんないから、たぶんこの辺から出てくるんだろうってうやむやのうちに描いちゃったんだよ! イクサー1ってベルトもしてないから、あのパンツみたいなものの中にかくしてるのかなあって……」

ひ「パンツ!?」

か「なんて言い方なの(笑)」

ふ「だってほかに言いようがないじゃない。胸のやつとつながってるわけでもないし」

も「あれ、服の上に下着みたいの着てるわけでしょ。気持ち悪るー(笑)」

か「あの娘、ロボットなんじゃないの?」

ひ「ロボットだからって鉄腕アトム的な見方はやめてくれよなー(笑)」

か「あたし、そういう風に考えてたから」

ひ「腕のところがカパッとあいたりして」

も「バネがビョーンとか飛び出したりして」

ぬ「胸のあたりにいろいろあるじゃないですか」

ひ「胸のところがメカになってるんだよね」

——あけると真空管が入ってるんですか(笑)?

わ「あそこがあいてミサイルが出てくる(笑)」

ひ「あのなあ……」

ぬ「図解はかかないんですか」

ひ「ないですね」

ぬ「イクサーロボって腕では飛ばないんですか?」

ひ「むちゃくちゃだあ(笑)」

ぬ「背中からブーメランが出たりさあ」

ひ「背中からブーメラン!?」

ぬ「だって背中のパーツが取れそうだから……」

ひ「ほら始まったぞ! 本猪木」

も「そんなことないですよー」

わ「目から光線出したり口から火をはいたり(笑)」

も「あれには口がない!」

ぬ「胸にもなんかあるんじゃない?」

も「ない! ない!(笑)」

ふ「そういえば、ぬるちさんが顔がないってさわいでた」

ぬ「顔じゃないよ。胸と腰がないって言ってたんだよ」

ふ「フェイスガードひらいても、女の子の顔がないっていってた」

も「そんなの気持ち悪いよ」

き「ディロスθの顔ってあの小さいのなんですか? もしかしたらああいう顔した人が入ってるとか……」

も「なんでそんな風に考えるんですかー(笑)」

ふ「ディロスθがやられたけど脱皮して別のメカになるとか……。あれ以上巨大化できないから……」

ひ「脱皮!?」

——だんだん小さくなってく(笑)

き「イクサー1はどうやって地球に来たんですか?」

ひ「あんまり考えてないんです(笑)」

き「イクサーロボはどこに隠してあるんですか?」

ひ「あれは別の次元にかくしてあるんです」

も「次元のひだにかくしてあるんです(笑)」

——「ドラえもん」のポケットみたいに。

ひ「そうそう(笑)」

ぬ「イクサー1っていつもああやって木の上でブラブラしてるんですか?(笑)」

も「敵も味方も日本にしかいない(笑)」

ひ「そうだね。これから外国のあつかいをどうしようかと考えてるんだけどね」

——あれは吉祥寺ですか?

ひ「吉祥寺はあんなに道が広くないよ(笑)。あれは名古屋です」

か「名古屋?」

き「ディロスが倒れるとき新宿のガードみたいなのが……」

も「それは原画の方が……」

ぬ「すいません。なんにも考えていませんでした(笑)。ACT2は東京タワーと格闘させましょうよ。最近東京タワーたおすやつないでしょう」

ひ「ないですねー」

も「東京タワーのうしろに大阪城があるとか」

ひ「むちゃくちゃ(笑)」

ぬ「東京タワーが変形してロボットになるとかさあ」

か「東京タワーが?」

わ「富士2號が国会議事堂から出てくるとかさ(笑)」

ぬ「新宿副都心が変形して巨大ロボットになるとか」

も「そんなもんどうやって描くの?」

ひ「壮絶だね」

ふ「東京タワーをバックに市ヶ谷の駐屯地から富士2號が出てくる!(笑)」

ひ「本猪木ががんばってくれるよ」

ふ「がんばって描いてね」

も「いやあ、ぬるちさんよろしくお願いします」

ぬ「三角形だけ描いとけば、あとは本猪木さんが描きたししてくれるよ」

ひ「ひどい(笑)」

――だんだん異常になっていく。

ふ「もともと異常なんです(笑)」

――あの怪物たちっていうのは平野さんの趣味なんですか?

ひ「あれは渡辺くん!(笑) かってにパックンパックンさせてたの。こっちはあんな風になるのーってね。顔にびらびらがついてたり」

わ「でもオーゲスの頭の触角がかわいかったでしょ」

ひ「あれはピクピクしてかわいかった(笑)」

――けっこうスプラッター的な部分の評判がいいですね。

わ「そうですか?」

ひ「ただ怪物がやられすぎちゃうんだよね。いっぱい出てくんだけど、みんな一発でやられちゃうから」

も「まあ時間が少ないですからね」

ひ「あれだけの種類が出てくるとすぐやられちゃう以外に方法がない(笑)」

き「あの学校の生徒たちは、全部のりうつられちゃったんですか」

ひ「そうです」

も「あいつら健在なんだよね」

――しつこく渚も学校へかようとか(笑)。

ひ「そりゃすごい(笑)。することないからとりあえず学校へ行くと」

き「実写版の『イクサー1』が見たいですね」

も「金髪のカツラなんかかぶって」

ひ「気持ちわるー、ぞっとするね」

ふ「それで最後に怪物たちが爆発する(笑)」

――そういえば、なんでディロスθは爆発しないんですか?

ひ「なんでって……(笑)」

か「復活するとか? 〝リフレッシュパワー〟とか言って(笑)」

ふ「真夜中にこっそり回収しにくるとか(笑)」

――パート2のころにはくさってたりして。

も「中でコバルトにうじがわいてるとか」

か「どーしてそういう風になるの(笑)」

ひ「本猪木くんはコバルトがぐちゃぐちゃになったとこが見たいんだろ」

か「そういうタイプなのよ本猪木くんは」

も「へっへっへっへっ」

か「コバルトはもう出ないの?」

ひ「あれは死んじゃいました」

ぬ「ディロスθがおっこちた時って、大爆発起こしたのに近所の人は生きてるんだね」

ひ「あれはね、ちゃんと重力制御しておっこちてきたんでしょ。西森のコンテはもっとびどかった。ヴォーンとかいっておちてきたのに、周りに人がむらがってる(笑)」

ぬ「火の玉が広がったんで、あっ、こりゃ辺り一帯火の海だなあ、と思ったら周りに人がいっぱいいて〝あれはなんだ〟(笑)」

ひ「あれは不思議な力を持ってるんだよ」

――まわりだけ不思議界なんでしょ。

ひ「不思議界ねえ(笑)」

も「このはなしに理屈はいらないんですよ」

き「ところであの宇宙船は玉子みたいだけどどうしてあんなになってるんですか」

も「あれは元々玉子の形をしてたんですけどまわりがだんだんとれちゃってああいう風になったんです」

き「あれコバルトたちしかいないんですか」

ひ「そうです」

き「あんなにでかいのにたった4人しか乗ってないんですか。たった4人で星を乗っ取ろうとはふてえやつらだ(笑)」

――星を乗っ取ってどうするんですか?

ひ「住むんじゃないの(笑)」

も「隠れて住んでた方が安全だったりして(笑)」

――3人で地球に住んで、まわりは化物だらけで……(笑)。

ふ「エンディングがちょっと悲しいですね」

ひ「あれは悲しい。でも主題歌だって後で付けたんだから」

――いきなり宙明さんの名前が出た時はびっくりしましたね。

ふ「さんぜんと輝く人ですね」

わ「声優さんはうまかったですね。うちのスタジオでみんなまねをしてますよ。サー・バイオレットの〝かわいい子〟というセリフ」

も「気持ち悪いやめてくれ!(笑)」

ふ「渚が〝キャアキャア〟いうのが20数回あったのが楽しかった」

か「やだ、ちゃんと数えてるのね」

ひ「なんでも数えてるね」

ふ「だってうるさかったんだもん! あんまり〝キャアキャア〟言うんでつい……(笑)」

――福島さん、だいぶ見たんじゃないですか。

ふ「まだ9回だよ」

ひ「9回!あれは1回見たら2、3ヶ月間おいた方がいいんだよ」

も「あっても、僕も3回見ちゃいましたよ」

ひ「おれだってもういやっていうほど見たよ。ラッシュで」

ふ「知り合いのところの4インチテレビで見てるからほとんどアラも見えないんで何回でも見れる」

ひ「そりゃいい見方だ」

ふ「お星様も見えないし」

か「いやみ」
も「ひどい言い方！」
ふ「だってでかいテレビで見るまで気がつかなかったんだもん」
ぬ「えっ、なんのこと？」
ふ「いや、画面にセルゴミがいっぱいあったでしょう」
ひ「あんなのはひさしぶりだね。最初の『ヤマト』みたいだったね」
も「髪の毛のまわりにゴミが飛んできたでしょう」
ひ「いや、あれは効果なんですかとか言われちゃったよ(笑)」
も「だからフケだって言っておきましたけど(笑)」
ぬ「『イクサー1』ってエログロだけは阿乱さんの原作に近いね」
ひ「エログロったってねえ……」
ぬ「あれだけ阿乱さんの意志を受けついでるんじゃない？」
ひ「エロなんてないじゃん」
ふ「エロは普通のアニメとたいしてかわらないじゃん」
ぬ「でもどうして渚は裸になっちゃうの？」
ひ「あ、いわれてしまった(笑)」
か「あれは付属品をつけて乗っちゃいけないんですよね」
ふ「そういえば渚が〝出てけー〟てさけぶシーンはチューブがなかったような気がするんだよね」
か「あれはなくてもいいのよ」
ぬ「えー描かなくてよかったの？　あれめんどくさかったんだよね」
ひ「いやあ、みごとにあのシーンはチューブ描くの忘れましたね(笑)」
ぬ「そういえば、イクサーロボの胸って透けてるんだね」
か「あれは原画マンがかってに透けさせたんですよね」
も「本当は透けてない」
ひ「あれは仕方ないよね。原画を尊重してやったからね」
ぬ「すいこまれる時、絵コンテでは裸になっていくって書いてあるのになかったよねえ」
か「いやらしい。ぬがせる過程みたいなんて」
ひ「いやらしいの(笑)」
ぬ「福島さんがあそこに期待してるっていってたよ」
ふ「何言ってんだよ(笑)。〝たしかコンテに書いてあるよね〟って言ってただけじゃないか。服を着たまま入ってったと思ったら、ヌードになってたんだもん」
ひ「あそこ入ってると着てるもんが見えなくなるの(笑)」
き「あの頭のバッチは？」
ひ「なかったでしょう」
き「え、ないの？」
ひ「ないですよ」
わ「ね、ちゃんと自分の中でふんぎりをつけたんだよ（一同爆笑）」
か「ただ単に裸を見せたかっただけでしょ」
ぬ「最初あのバッチみたとき〝なんて趣味の悪い女の子なんだろう〟と思ったんだよね」
か「えー、どうして。かわいいじゃない」
ふ「いやあれ見てると昔のスマイルバッチ思い出しちゃう」
か「あれ原作にもあったわよね」
ひ「そう、おもしろいから使ったの」

——あれは阿乱さんの顔じゃないですか？

ひ「そうそう」
ぬ「ハロウィンマークだね」
ふ「そういえば辻さんが写真選んでたとき、渚の笑った顔がないってこまってたね(笑)」
ひ「最初の方にあるじゃない」

——いや、だから最初の方にちょっとあったぐらいであとずーっとさけびっぱなし。

ひ「いや、でもこのあとパート3まで笑った顔はひとつもない！　たぶんそういうことになるでしょう（大爆笑）すごいね」
ぬ「『イクサー1・ACT2』が楽しみ」

——こんどは強力なメカがいっぱい出るんじゃないですか。

ふ「凶悪なメカがいっぱいじゃないの？(笑)」
も「そんなにメカが出てくるのかな」
ひ「いっぱい出てくるんじゃないか」
ぬ「だいたい描いとけば本猪木先生がなおしてくれるから大じょうぶだよ(笑)」
も「ゲーッ、僕、今回知らないからなおしちゃっただけで、なおさなくてもいいところまでなおしちゃったから……」
ひ「みんな強引にやってもらうから」
ふ「だって平野さんはもうその腹づもりなんでしょ」
ひ「そうだったりして(笑)」
ふ「こまったもんだ(笑)」

——なにやら話が脱線したところで終りましたが「戦え!!イクサー1・ACT2」にむけて、作業が開始されているようです。来年の完成を楽しみにしております。本日はどうもありがとうございました。

プレゼントのお知らせ

官製ハガキの裏に応募券をはって、次のアンケートの答とともに、御希望のプレゼント名をお書きのうえ御応募下さい。抽選でプレゼントを進呈いたします。(希望品は第二希望までお書き下さい。)

住所、氏名、年齢、職業、性別をお忘れなく!! なお、ペンネーム希望の方は氏名の次に明記して下さい。

★あて先
〒165 東京都中野区松が丘2―21―14 あまとりあ社 戦え!!イクサー1・プレゼント係

★しめきり 86年1月31日消印有効

★発表 レモンピープル86年4月号誌上にて

●アンケート
❶面白かった記事を三点
❷「戦え!!イクサー1」のビデオを
①買った ②買っていない
❸②の人にお聞きします。「イクサー1」をどのようにして見ましたか。
①レンタル ②試写 ③その他(どのようにして) ④見ていない
❹お持ちの映像機器をお教え下さい。
①ビデオ(VHS) ②ビデオ(ベータ) ③レーザーディスク ④VHD ⑤8㎜ビデオ
❺その他ご意見がありましたら……。

●プレゼント
★「戦え!!イクサー1」ビデオソフトテープ
……VHS2名ベータ1名
★「戦え!!イクサー1」オリジナルサウンドトラックLP(提供㈱ユーメックス)……3名
★渚、イクサー1キャラクターフィギュア
(提供㈱ツクダホビー)……各3名
★広告用ポスター(平野・阿乱氏サイン入り)
……各5名
★メモパッド(平野俊弘、阿乱霊)……各10名

Fight! IZER-ONE Film Story Part B

月の裏側にひそむクトゥルフの宇宙船

緊張したおもむきのサー・バイオレット

ビッグゴールドの目が怒りに光る

「申しわけございません」

「ご安心をビッグゴールド、イクサー1とあの子娘は必ず抹殺してごらんにいれます」

原画■岩瀧 智

まだ原画を始めてから間もなくて、ビデオ用の作品をやるのも初めてでしたからだいぶとまどいましたね。担当したのは、ディロスθが出てきて街を破壊するあたりなんですけど、スケジュールがなかったのでいいものをあげようとして苦労しましたね、フィルムを見たら、自分のやったところがうまい人に負けちゃっているので、作品自体がおもしろかっただけに残念でした。

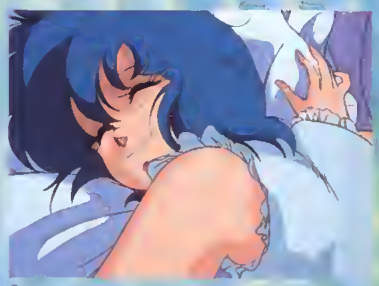
「夢……いいえ、夢なんかじゃないわ……」

シャワーを浴びる渚

「気がついたら自分の部屋のベッドの上だなんて……」

「ねえママ、今日はいっしょに寝かせて」

「あら渚、どうしたの？」


「おやすみ！」

「べつにかまわないけど……おかしな子ね」

イクサーIの妨害による地球侵略の遅れに業をにやしたビッグゴールドは、ディロスθによって渚とイクサーIを抹殺することを命じる。

一方渚は気がついたときにはベッドに寝かされていた。だが彼女の記憶にはまた、あの恐怖の体験がまざまざとよみがえってくるのだった。

家の外には渚を見守るイクサーIの姿が……

イクサー1は再び異空間にひきこまれていた

朝日のさす世界が突然暗闇に！

イクサー1を待ち受けていたボイドの姿

「!!」

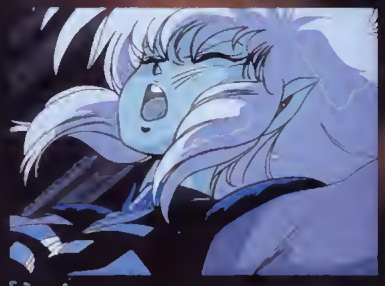
いままでの相手とは違う迫力に、イクサー1は身がまえる

渚を見守るイクサー1のもとに朝かおとずれたと思いきや、周囲は突如異空間へと変[illegible]そこで彼女を[illegible]はサー・[illegible]送り出した[illegible]姿であった

まったく動じない

だがボイドには通用しない

飛びかかるイクサー1


「うっ！」

パンチも通用せず、ボイドの一撃が襲う！

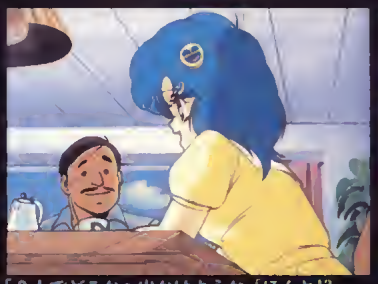
「ハァッ！」

原画■越智博之

今回はほんとにお手伝い程度で、20カットばかりやらせていただいたのですが、平野さんのキャラクターを描くのがむずかしくて苦労しましたね。やったシーンは渚の両親が死んで、渚とイクサー1が話すあたりと、ディロスがおっこちてきたあたりです。わりと重い芝居だったのでむずかしかったですね。あと、群集の中にカミーユを登場させたんですけど、意外に反響を呼んでるみたいでこまっちゃいました。全体的にすごい作品だと思いますけど、自分のところが他にくらべていまひとつ良くなかったのがショックでした。

「ママ　…？」

「やったねママ！」



「3人でどこかへ出かけようか」「ほんと!?」

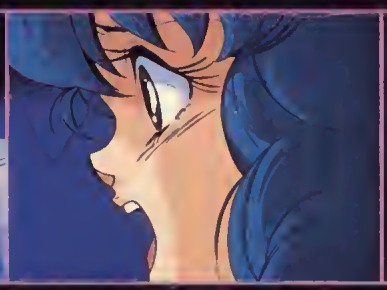
「おはよう！」

突然、怪物へと変化していく

ふりむいたママが…

母親のベッドで目ざめた渚は、いつもの通りの朝がおとずれているのを知ってキッチンにおりてくる。いつものように交される親子の会話。だが、平和な朝の食卓もまたもや異様な世界へと移っていく。渚の目前で、両親はふくれあがるように怪物と化していく。恐怖がまたもや渚を襲う！

父親の姿も怪物へ変化していく



「ママ！……パパ！」

怪物と化した両親がせまってくる

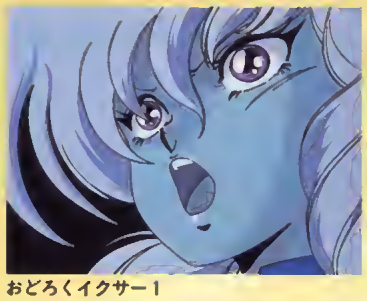
恐怖にすくむ渚

「た、たすけて……パパ……ママ……」

「い、いやあ！……いやあ！」

色指定 ■ 安斉弘美

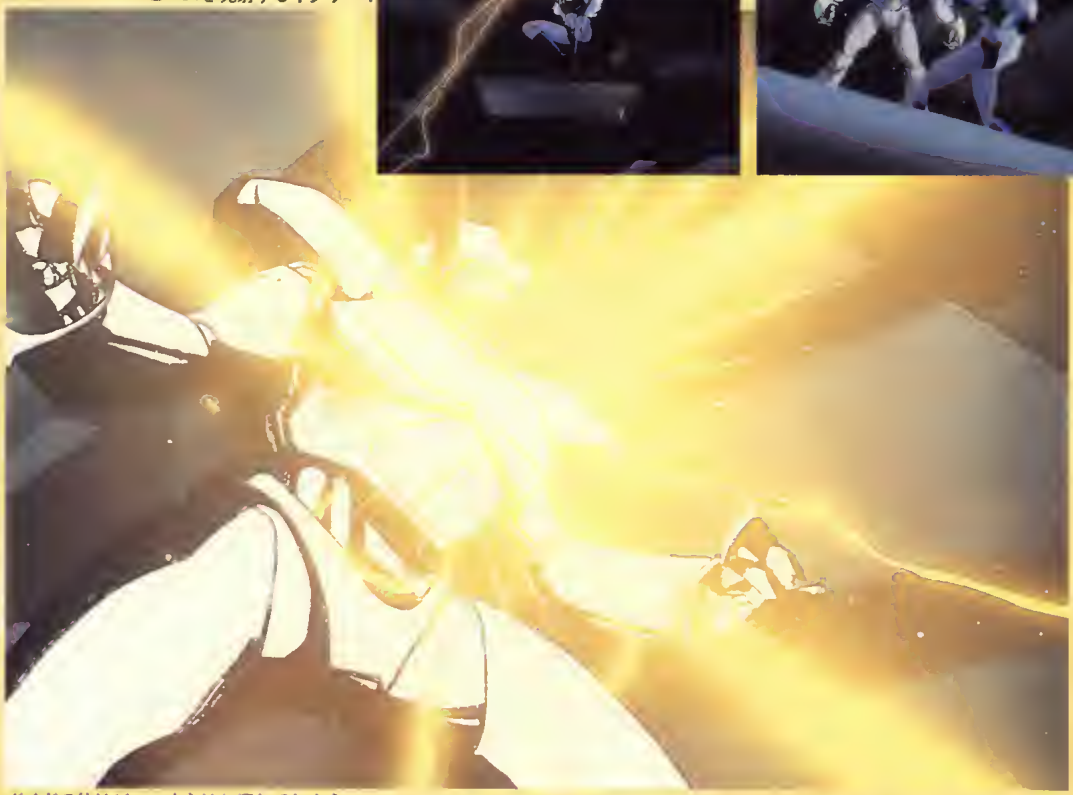
動画がすごく細かかったので彩色するのが大変でしたね。それと色指定もかなりリアルな感覚でしたから、苦労しました。怪物などもかなり細かくリアルな感じでしたから、カゲも多くて大変でしたけど、やりがいのある仕事でした。こちらとしてはなるべく平野氏の要求に近づけるように努力したつもりですが、かなり近い線にいったのではないかと思います。参加させてもらってとても勉強になった作品でした。パート2の方にも機会があれば、ぜひ参加させていただきたいですね。


おどろくイクサー1

だがボイドの体には通用しない

ビームサーベルをとり出すイクサー1

ビームを発射するイクサー1


ボイドの体はビームすらはね返してしまう

立ち上がれないほどにダメージを受けてしまう

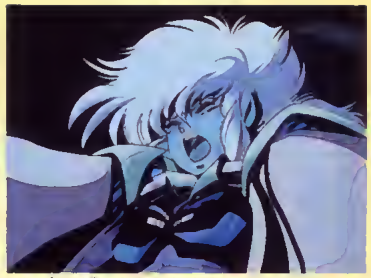
ビームを放ち続けるイクサー1

はねかえされたビームがイクサー1を襲う

全力をふりしぼってボイドの手をのがれる

ボイドの弱点を発見したイクサー1の目が輝く

ボイドの口から触手がのびていく


ボイドに捕えられてしまうイクサー1

ボイドにむけてビームの全力放射する

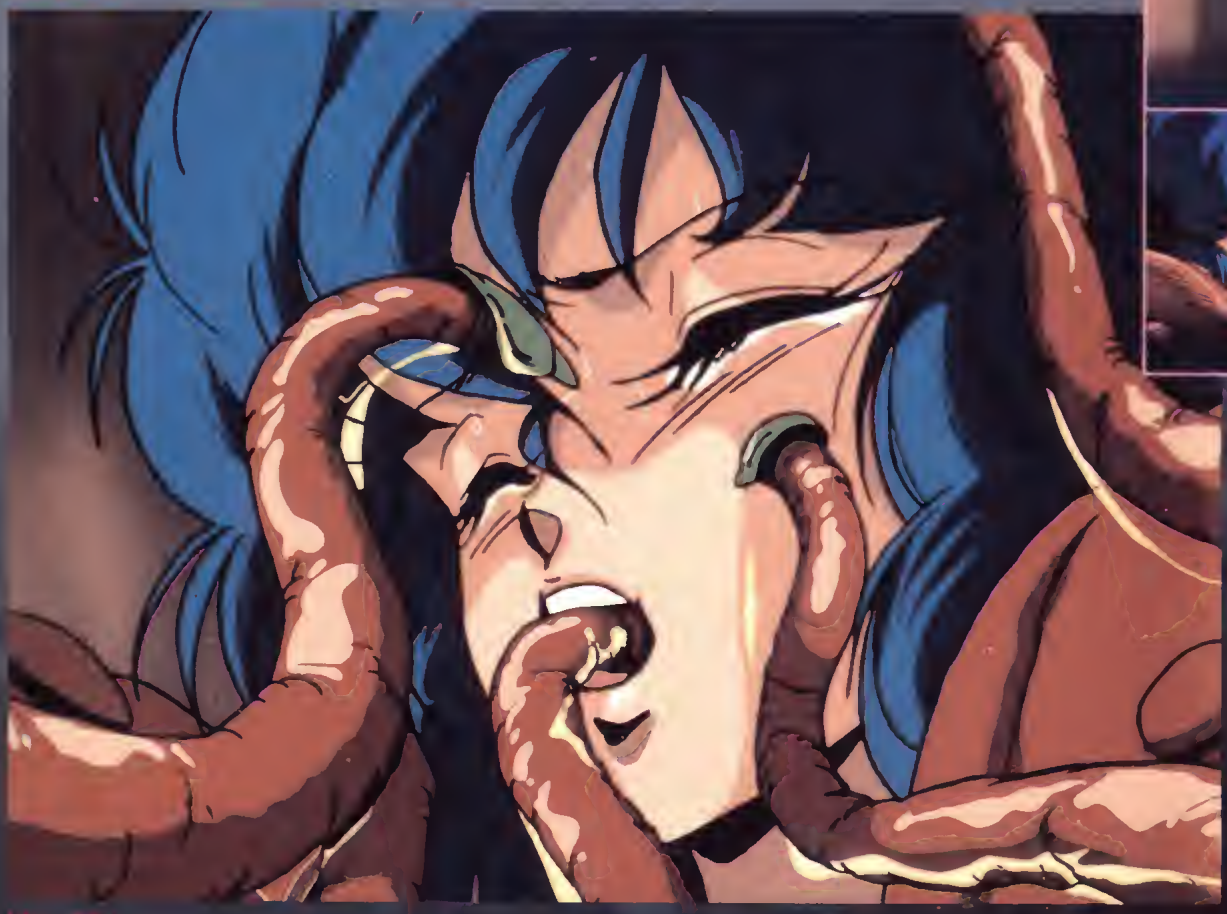
ホイトのハワーにほんろうされるイクサー1。次々と繰り出されるイクサー1の攻撃も、彼には通用しなかった。たか、危機のさなかボイドの弱点を見つけたイクサー1は必死の攻撃で倒すことに成功する。たか、者も危機におちいった。

くずれおちるボイドのぬけがら

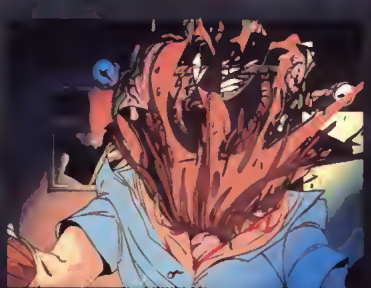
全身のあちこちから内容物が吹き出す

装甲のつぎめが裂け始める

戦いの終ったイクサー1は渚のことに気づく



おびえる渚の前にせまる、怪物と化した両親。その触手が彼女をおいつめたとき、2人の怪物は頭をくだかれ倒れた。危機を救ったイクサーIIは、渚に自分の正体をあかす。だが両親が目前で死んだショックに、渚の心は半狂乱の状態であった。



加納 渚■荘 真由美

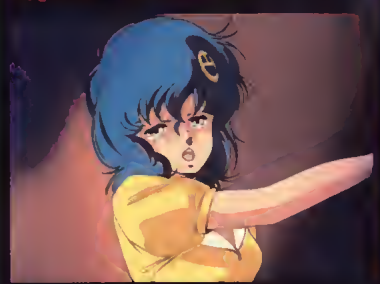
私の演じた渚の役は、ごく普通のどこにでもいる女の子。キャラクターもすごくかわいくていいなあと思いましたね。ただ、ストーリーのほうが渚はおびえて逃げまわるという場面がほとんどで、アフレコの時は最初から最後まで悲鳴をあげっぱなしだったんですよね。それとところどころに渚の日常的な芝居のシーンが入っていたので、そのへんの演じわけに苦労しましたね。今回はパート1という話を聞いていますので、次回では渚の女の子らしさが出せるようなシーンが多いといいですね。

「い、いや…いやよ、どうしてこんな事…」

「私が決断したばかりにご両親があ[illegible]」

「[illegible]すか[illegible]」

「!!」



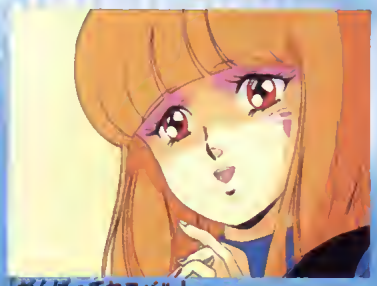
「いや!! パパとママを返して!!」

「私があなたをパートナーに選んだからです…あなたとご両親は絶対に守るつもりでした。それなのに…」「かえして!! パパとママを返してよ!」

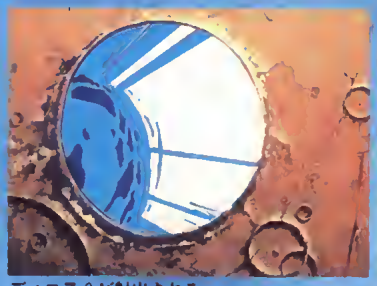
イクサー1 ■ 山本百合子

このイクサー1というキャラクターは女の子なんですけど、なにか別の世界からやってきたスーパーウーマンの様な力をもった子なんですね。ですから普段は気丈夫な感じですが、渚の前では多少ナイーブな部分を出したりするあたりで女の子らしさみたいなものを出してみたつもりです。こういった風に女の子が活躍する話というのはめずらしかったですね。そういった意味で楽しんでやれた作品でした。シリーズで続いていくという話を聞いてますので、次ではもっとキャラクターを出せるような芝居があるといいですね。

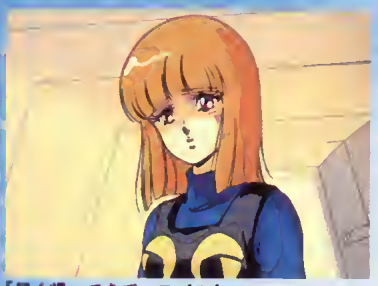
「出撃するんでしょ」「ええ」



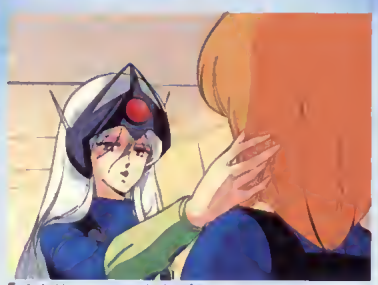
「がんばってねコバルト」



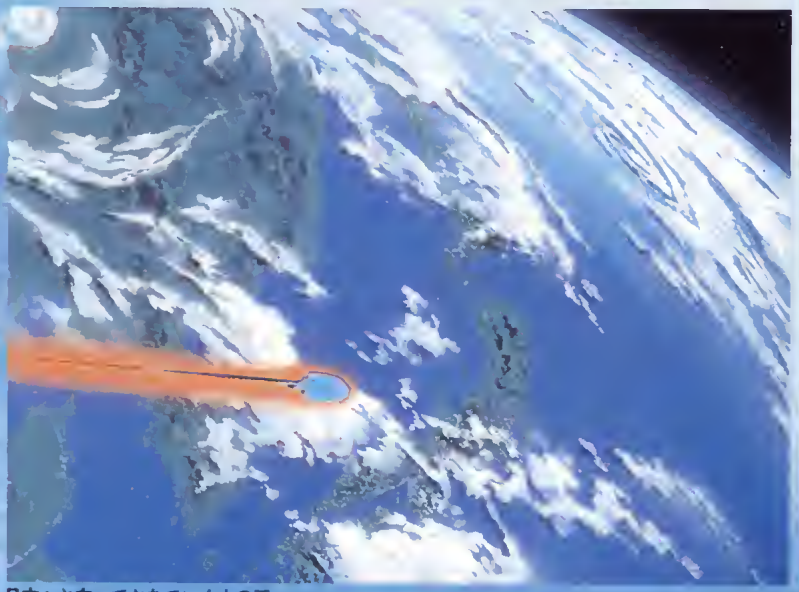
ディロスθが射出される



「早く帰ってきて、コバルト……」



「イクサー1はかならず倒してみせるから」



日本へと向っておちていく火の玉

イクサー1と渚を抹殺すべく、コバルトの乗るディロスθは地球へ向う。市街地へ落下したディロスθは人々を混乱へと陥し入れるのだった。ディロスθの存在を確認したイクサー1は、渚とともに燃えさかる街へと向った。

胎動していた火球がディロスθへと変化する

おどろいて見上げる人々

街中へ火球がおちる

「ディロス!!」

「渚!!　私といっしょに来て!」「いやよ!」

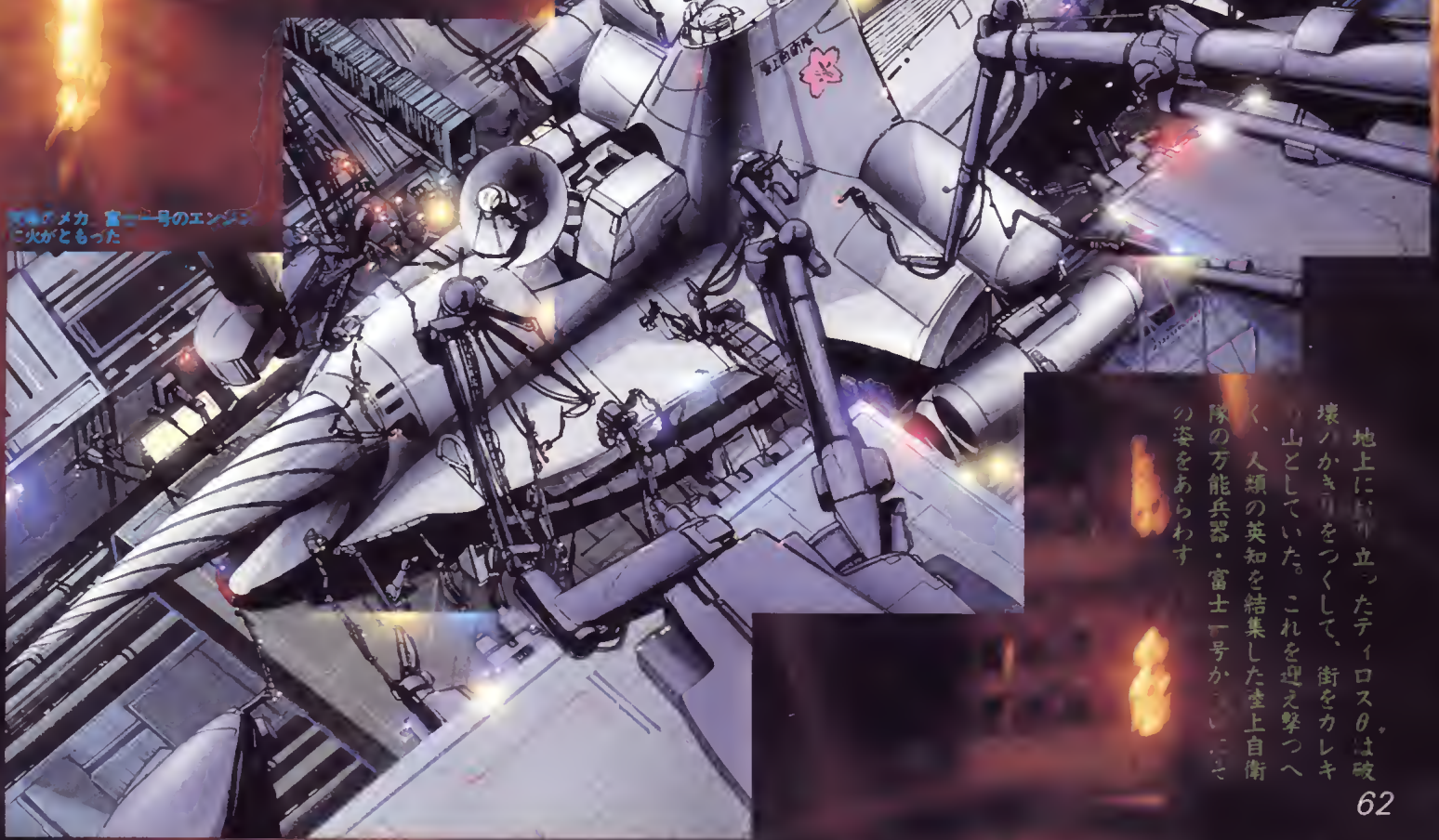
「行きます!」

あたり一面は光の海と化していく

き飛ぶバス

あやつるコハルト

発光するディロスの腕

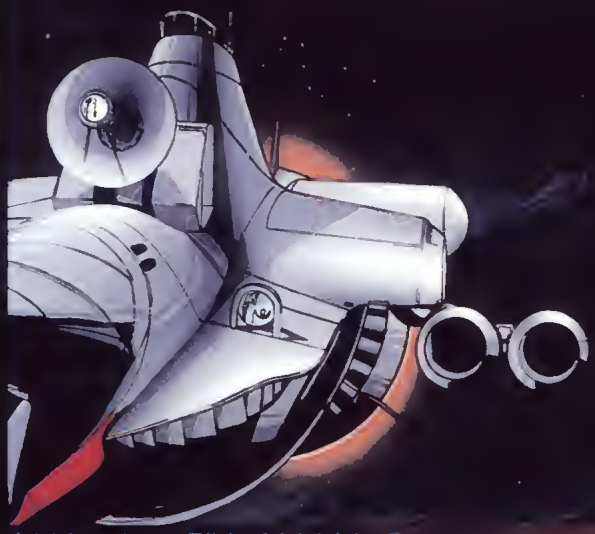


メカ　富士一号のエンジン
に火がともった

地上に降り立ったディロスθは破壊のかぎりをつくして、街をカレキの山としていた。これを迎え撃つべく、人類の英知を結集した陸上自衛隊の万能兵器・富士一号がいよいよその姿をあらわす

サー・バイオレット ■ 塩沢兼人

キャラクターを見たときは美形の男みたいに思っていたんですが、実は女ということを聞いてびっくりしましたね。敵の司令官ということで謎めいた感じで、声としては男でも女でもない中性的な雰囲気を出すのに苦労しましたね。アフレコのときに絵がほとんどあったので雰囲気もつかみやすかったです。今回は出番が少なかったのが残念でしたが、パート2なんかもあるそうですから、そちらに期待しています。

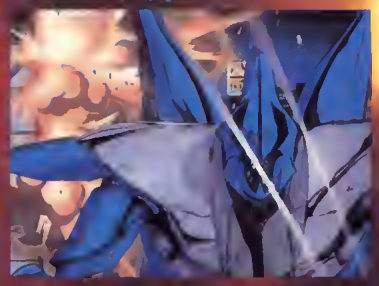


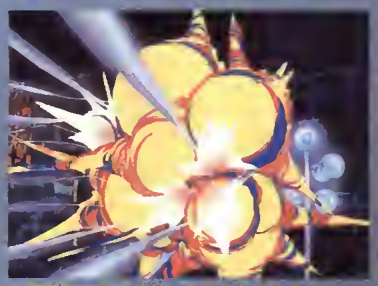
富士山をバックにその勇姿をあらわした富士一号

「」

デ[illegible]ズ0にまちふさがる富士一号

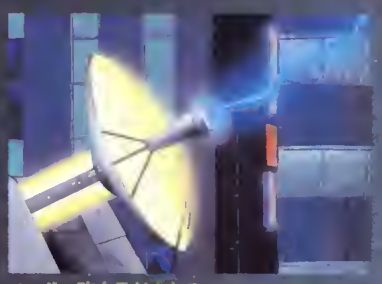
「あっ富士一号だ！」



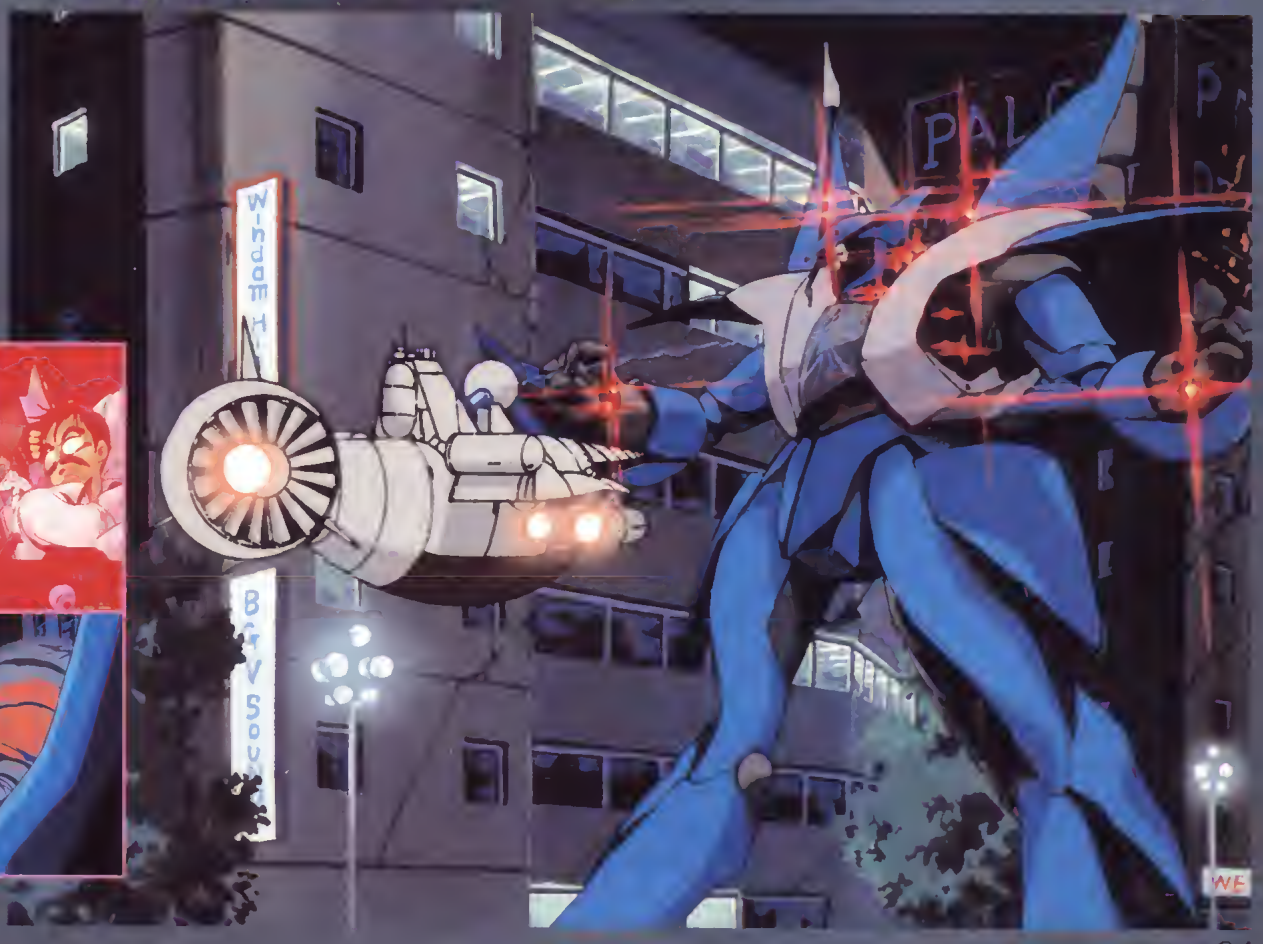


「攻撃開始！」

近代化学の粋をつくした富士一号も、ディロスθにとってはオモチャに等しかった。ディロスの一撃を受け富士一号は撃沈していく。イクサーIIは自分の分身である巨大兵器・イクサーロボを呼びよせ、いやがる渚と共に搭乗し、ディロスθにいどんでゆく。

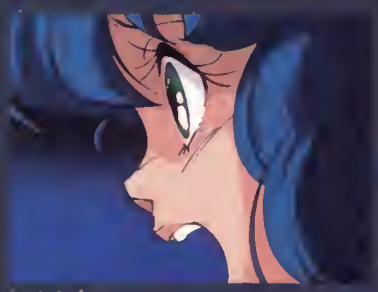


メーザー砲も発射される



ディロスの体が発光し、メーザーの一撃で富士一号は撃沈してしまう。

「君、私といっしょに戦いましょう」



「いやよ！」

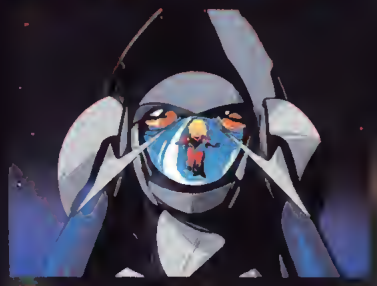
「富士一号が！」「ムリです、あの兵器ではテイロスθは倒せません」

セピア■安藤ありさ

今回はパート1ということで出番があまりなかったのが残念でした。キャラクターもすごくかわいくてとても気に入っています。セピアというのは異星人の女兵士ではあるのですが、今回はコバルトを好きな一人の女の子みたいな感じで演じてみました。次ではセピアがイクサーにいどんで行くみたいですから、また今回とは違った雰囲気でセピアを演じてみたいですね。

ついにイクサーロボがその姿を表わした

「私の分身なのです、さあ君」「ダメッ！」



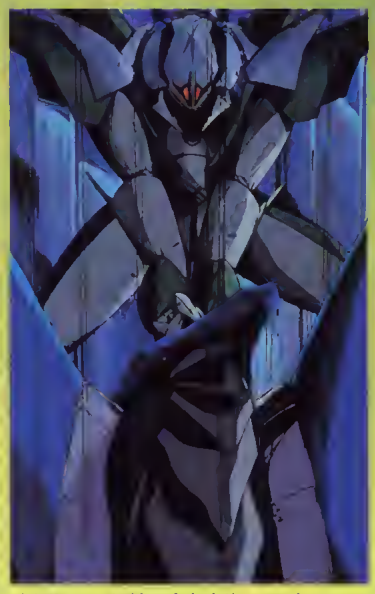
コバルト ■ 江森浩子

私の演じたコバルトはイクサー1のライバル的な存在ということで、男まさりの女性という感じで演じました。同じ兵士のセピアとは女の子同士であああいう関係になっていたりして、ちょっとびっくりさせられましたけど(笑)。アフレコのときに絵があったので、キャラクターをみてステキな絵だなあなんて思ったりして、作品的にも楽しむことが出来ましたね。コバルトはイクサー1にたおされてしまったので、出番が今回かぎりなのが残念ですね。

制作進行 ■ 越田啓文

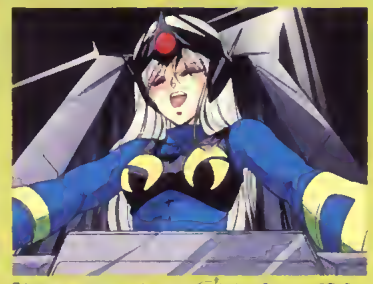
そうですね。作業の一つ一つが苦労といったところですが、自分自身の力がたりなかったという部分もありますので、自分で首をしめてたという感もありますね。出来上りに関しては、他から出ているものとくらべて、絵の密度などには自信を持っています。ただ、時間がなかった分、画面にゴミなどが目だったりしていたので、そのへんの不備さえなければ、自分として90点ぐらいの出来ではないかと思っています。苦しいなりに楽しいというかやりがいのある作品でしたね。

だがパワーの差であっさりディロスにはじき飛ばされてしまう

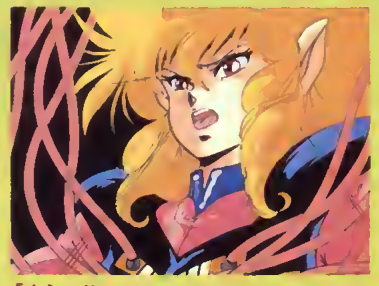


イクサーロボが上からなぐりかかった

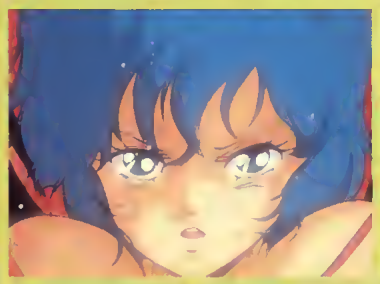
「者ノ なくなった両親のかたきをとるのです」



「しょせんこのディロスθとはパワーが違う」



「くうっ!!」



「ゆるさない……ゆるさないから……」

力強く起き上がるイクサーロボ

「パパ……ママ……!」

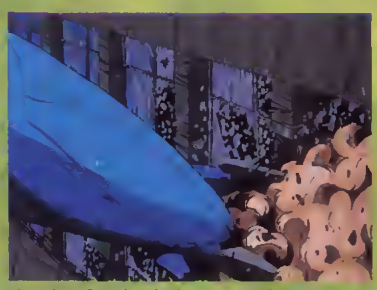
イクサーロボの全身に力がこもった!

イクサーロボからふき出るエネルギー

イクサーロボの両腕から発射された光線がディロスの体を直撃した！

「な、なんたこのパワーは!?」

ようやく体をささえられたディロス



ささえようとする指先がビルを破壊していく

すさまじいパワーにふき飛ぶディロス

演出 ■ 西森明貞

僕の作業っていうのは、ロボットのシーンの絵コンテを描いたのとごく一般的な演出の仕事ですよね。絵コンテのほうは平野さんからイメージを伝えてもらって、それを絵コンテにするということでした。演出のほうでは普段の数倍こだわりましたね。劇場並とはいいませんが、テレビシリーズではちょっと出来ないくらいこだわったつもりです。いま見ると良くこんなものが出来たなあと思いますけどね。狙った出来から考えると80点ぐらいかなという気もしますが、やって楽しかった作品でしたね。

ディロスΘを倒したイクサーロボはいずこへとなく消えていく

爆発をとどめないほどに くずれたディロスの装甲

コパルトはコクピットごと打ちくだかれてしまった

ディロスの前にせまるイクサーロボ

「うっ、うーー」コパルトの表情があせりにひきつる

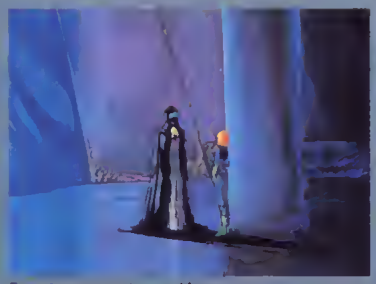
「うわあああーっ」

電の力が真上向きにイクサーロボの手がディロスの装甲にめり込んだ

「かわいそうなセヒア、でも立くのはやめなさい」

監修 ■ 長谷川康雄

監修といってもそうたいしたことはやっていないんです。平野さんも監督第一作目ということで、わからない点なんかがあったらしくそのへんでアドバイスをした程度なんですよね。作品自体、平野さんの世界観がよく出ていて、おもしろいと思いますね。パロディみたいな部分もあったりして、平野さんの力がいかんなく発揮されているんじゃないですか。関わったスタッフとしても、見る側としても非常に楽しませてもらった作品でした。



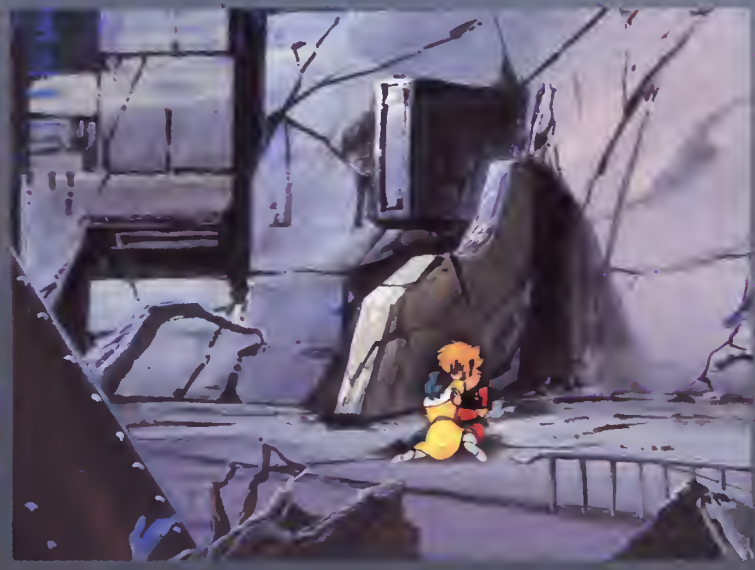
「セピア……かわいい娘　…」

戦いは終った……。たが異星人クトゥルフの侵略は終ってはいない。彼等は次の魔手を送りこむべく準備にかかっているのだ。渚やイクサーに悲しんでいるヒマはない。かんばれ渚！戦え!!　イクサー1！

「は、はい！　サー・バイオレット、イクサー1は私が、私がこの手で……」

「うっうっうっ　…」イクサー1に抱きついて泣いている渚

すでにガレキの[illegible]ている　ナが戦、はまだ戦こうとしていた



戦え!!

イクサー1

act.2

予告!!

強敵イクサーΣ出現!
危うしイクサーロボ!!

渚たちの前に立ちふさがる
新たな敵・イクサーΣとは!

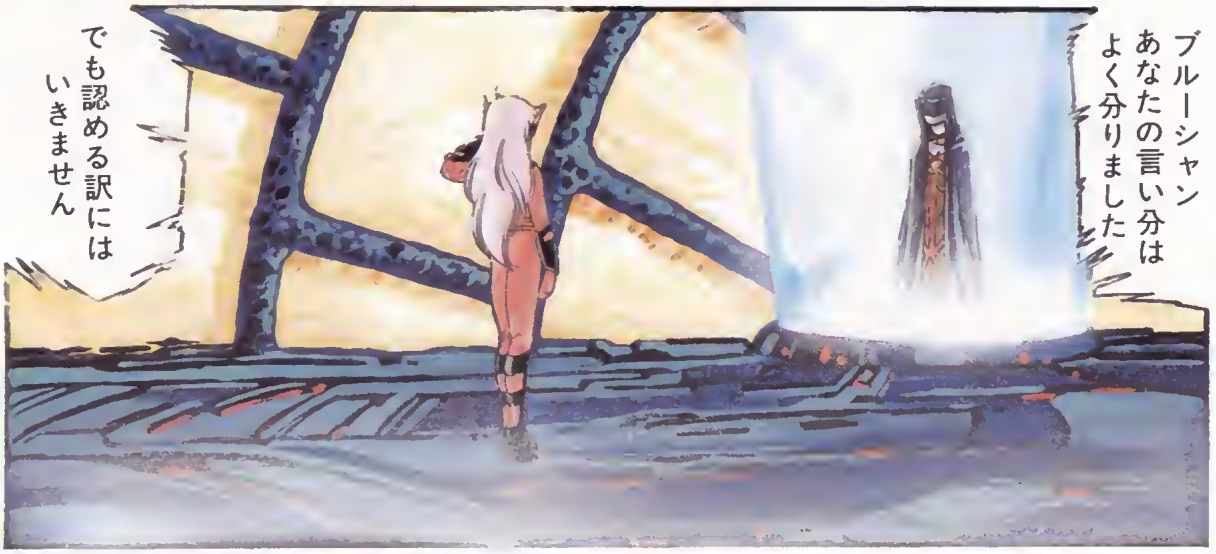
コバルトを失い復讐の鬼と化したセピアは、イクサーロボを上回る巨大ロボ・イクサーΣに乗り、渚を狙う。そしてそのパートナーであるイクサー1の妹、イクサー2とは!?
人類はモンスターたち、生物兵器に征服されてしまうのか?
加納渚の運命は?
戦え!! イクサー1!

さらにスケールアップしてやって来る
第2弾に乞御期待!

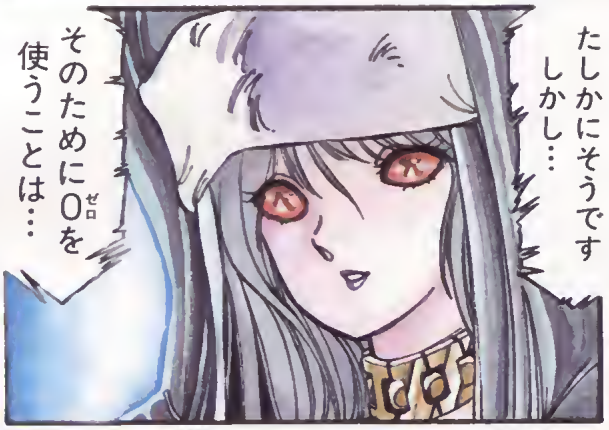
86年初夏発売予定

by 阿乱　霊

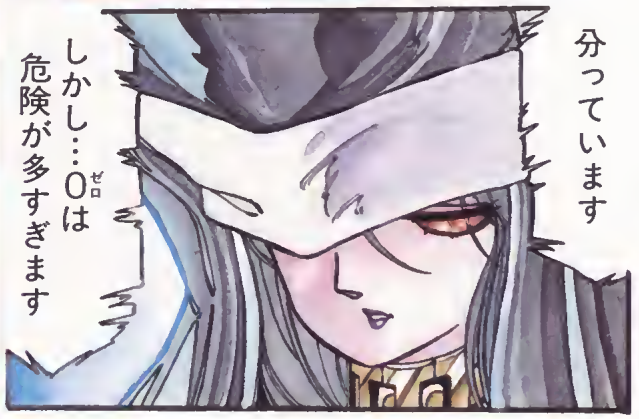
夏の終るころ
謎の侵略者達は
とつぜん地球に魔の手
をふるった
しかし…それを防ぐかの
ごとく謎の少女が現れた
その子は私の街をすくって
くれると言い　巨大な
ロボット　イクサー1を
出現させた　私は
その少女と共にイクサー1
に乗りこみ侵略者の
魔の手を粉砕した
私の名前は加納渚
その少女は……まだ謎で
ある
あれから三ヵ月余りが過ぎ
私とその少女は生活を共にし
地球も平和をとりもどした
かにみえた。


ブルーシャン
あなたの言い分は
よく分りました
でも認める訳には
いきません

なぜです
兄のかたきです


私には出撃する
権利がある
たしかにそうです
しかし…
そのために0(ゼロ)を
使うことは…

シスターッ通常の
戦闘ロボじゃ
イクサー1は
つぶせません
あなたにもそれは
分っているはずです

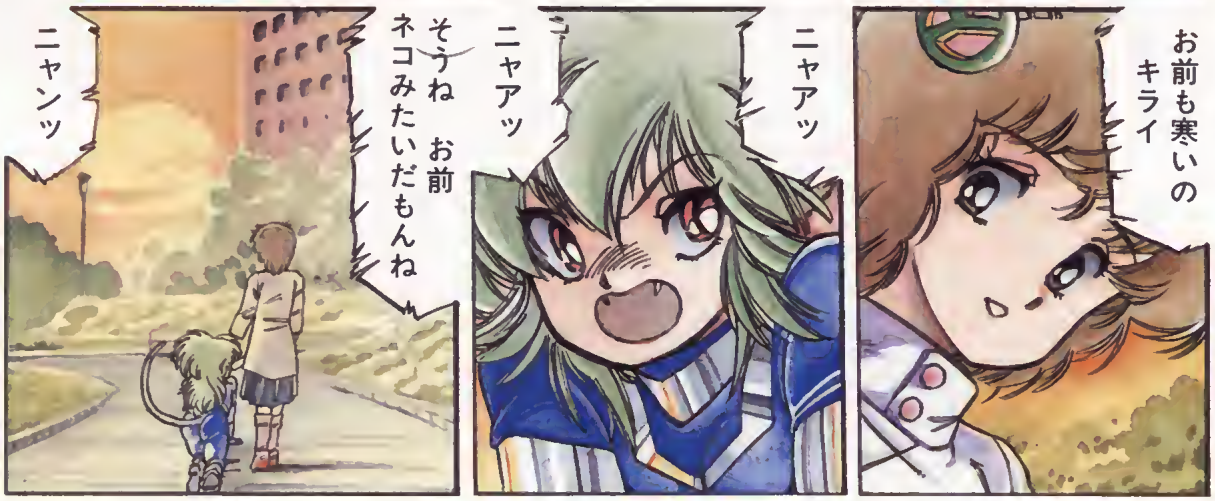

分っています
しかし…0(ゼロ)は
危険が多すぎます

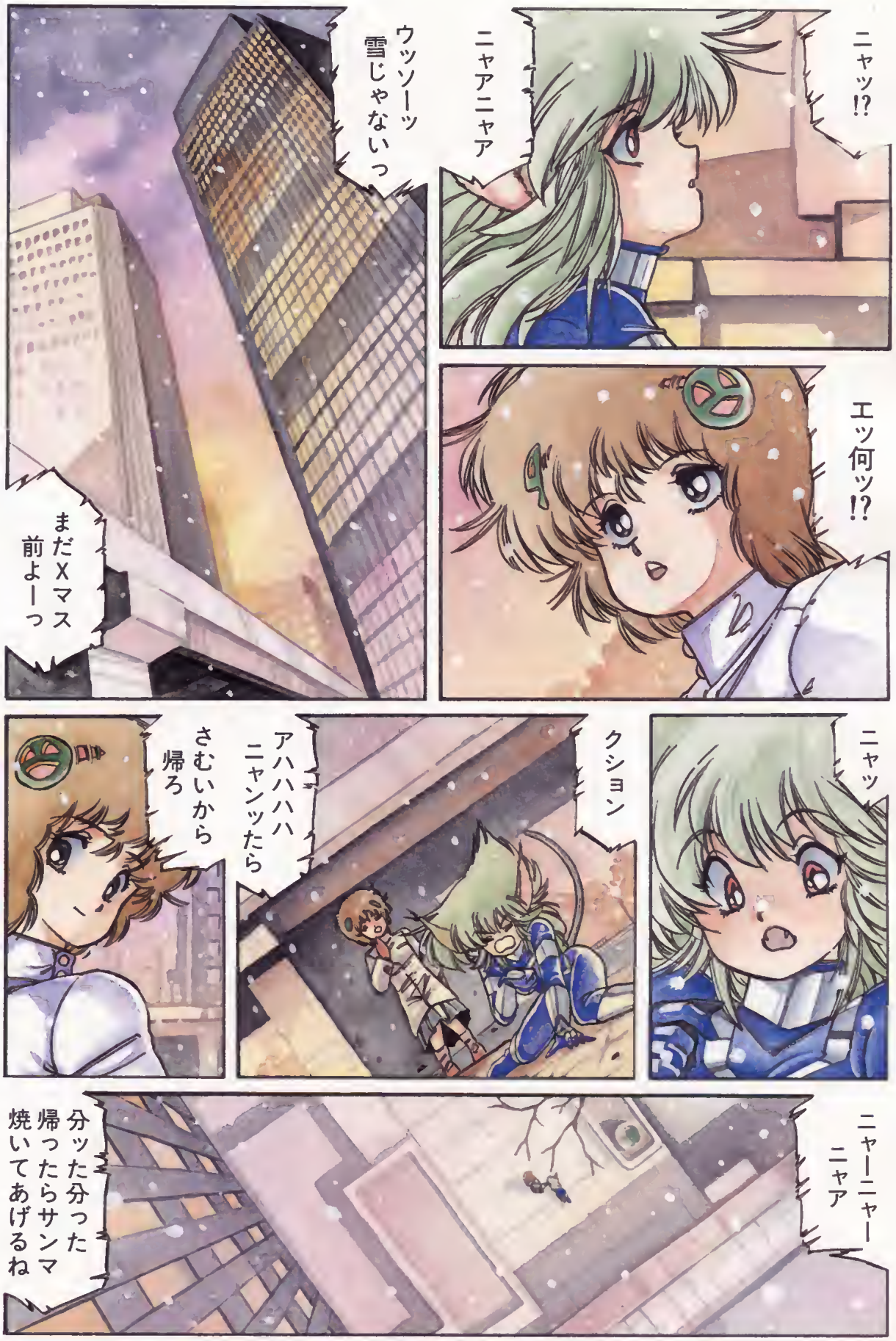
シスターバイオレットとも
あろうお方が小心な
目ざめの時は迫って
います だれかが
やらなければならないのです

0をあやつるということは
それだけで〝死〟それでもあなたは
出撃を許可します…
ブルーシャン勝って来なさい
もとより覚悟のうえ
負けて死ぬことになるよりは、勝って死を選びたい
……
分りました…
ありがとうございます
必ずやイクサー1をたおしてみせます

今より6時間後
地球攻撃を行う
攻撃隊は射出準備を
ととのえて待機せよ

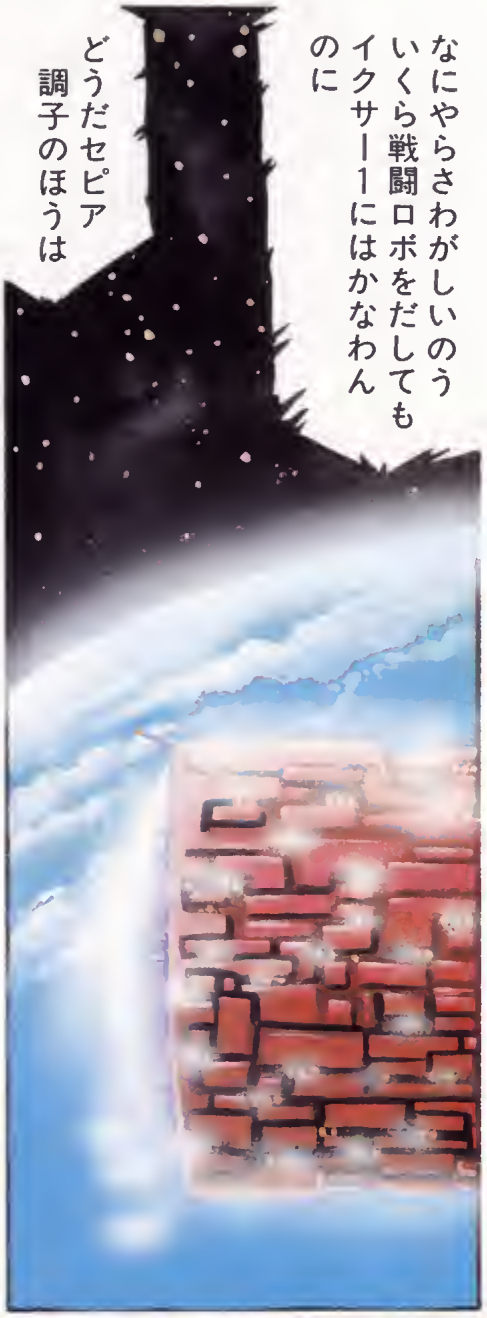
すっかり冬ね
寒くってやん
なっちゃう
ニャアッ

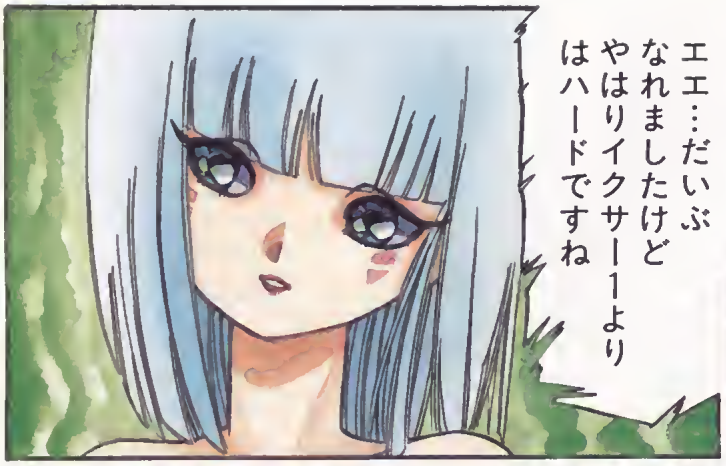

お前も寒いの
キライ
ニャアッ
ニャアッ
そうね　お前
ネコみたいだもんね
ニャンッ


ニャッ!?
ニャアニャア
エッ何ッ!?
ウッソーッ
雪じゃないっ
まだXマス
前よーっ
ニャッ
クション
アハハハハ
ニャンッたら
さむいから
帰ろ
ニャーニャー
ニャア
分った分った
帰ったらサンマ
焼いてあげるね

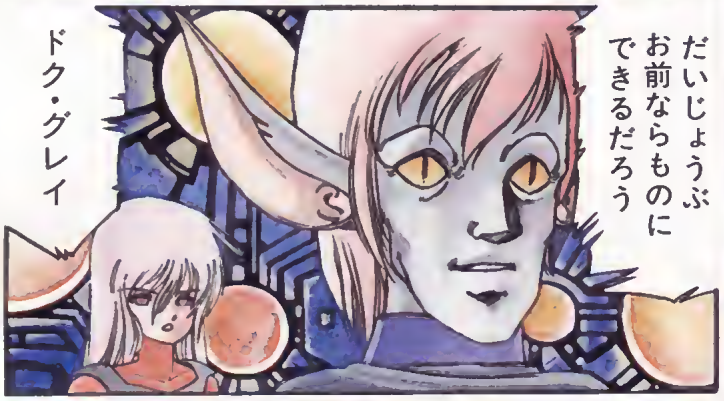
なにやらさわがしいのう
いくら戦闘ロボをだしても
イクサー1にはかなわんのに

どうだセピア
調子のほうは



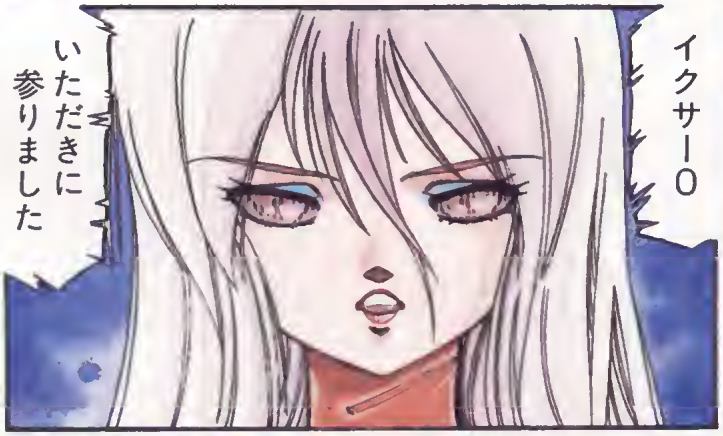


エエ…だいぶなれましたけど
やはりイクサー1よりはハードですね

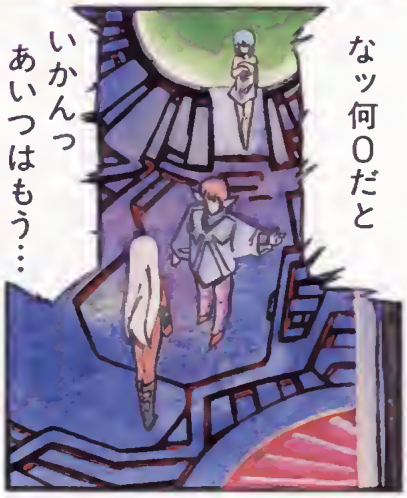


だいじょうぶお前ならものにできるだろう

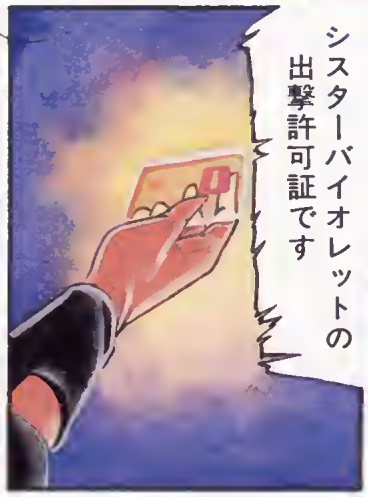
ドク・グレイ



イクサー0いただきに参りました

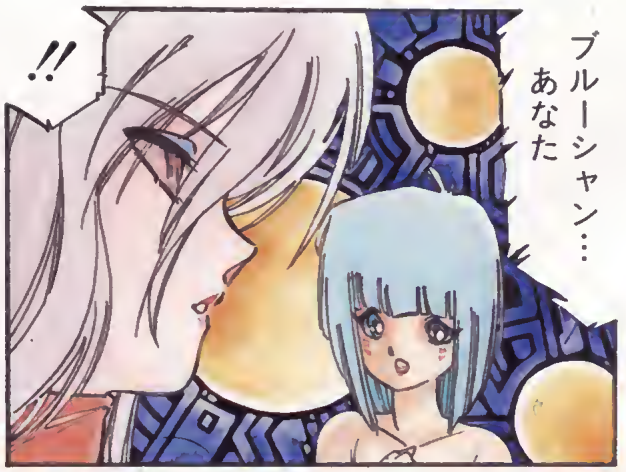


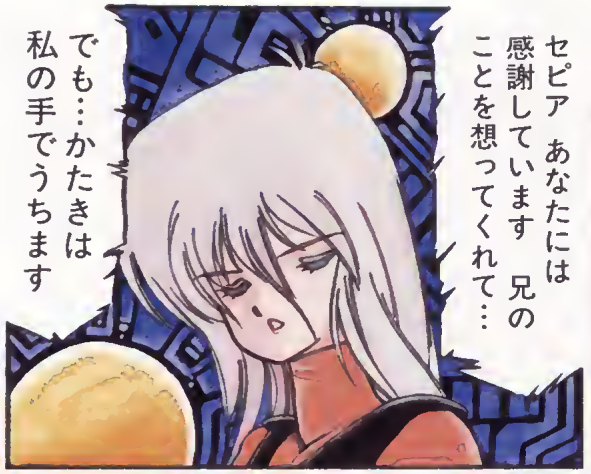
なッ何0だと
いかんっ
あいつはもう…

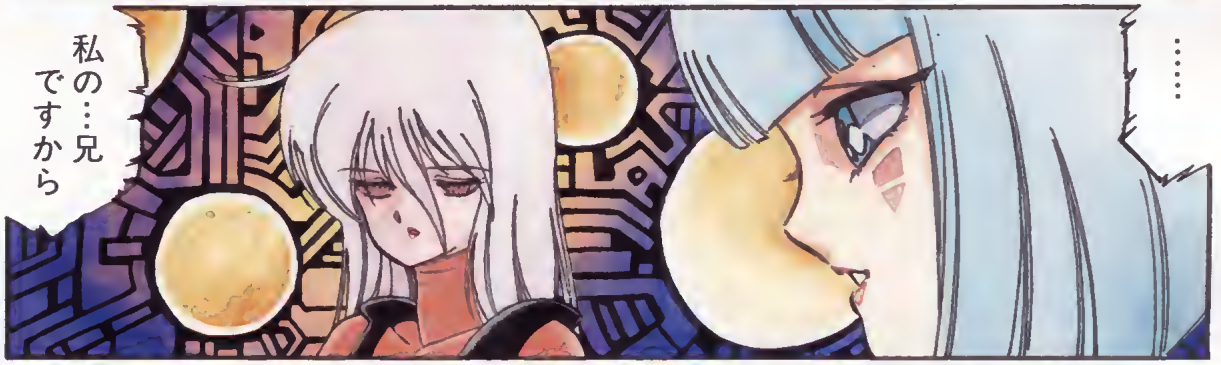


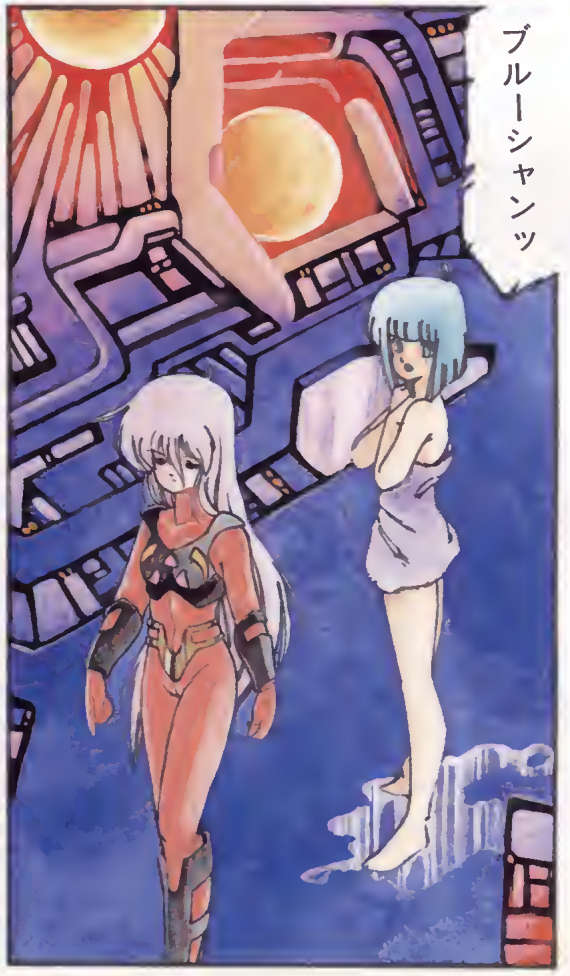
シスターバイオレットの出撃許可証です

シスターが許可を!?
よろしいですね!!

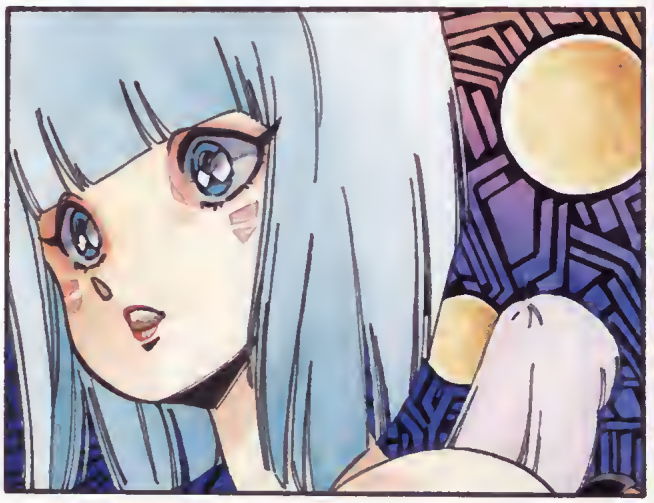

ブルーシャン…
あなた
!!

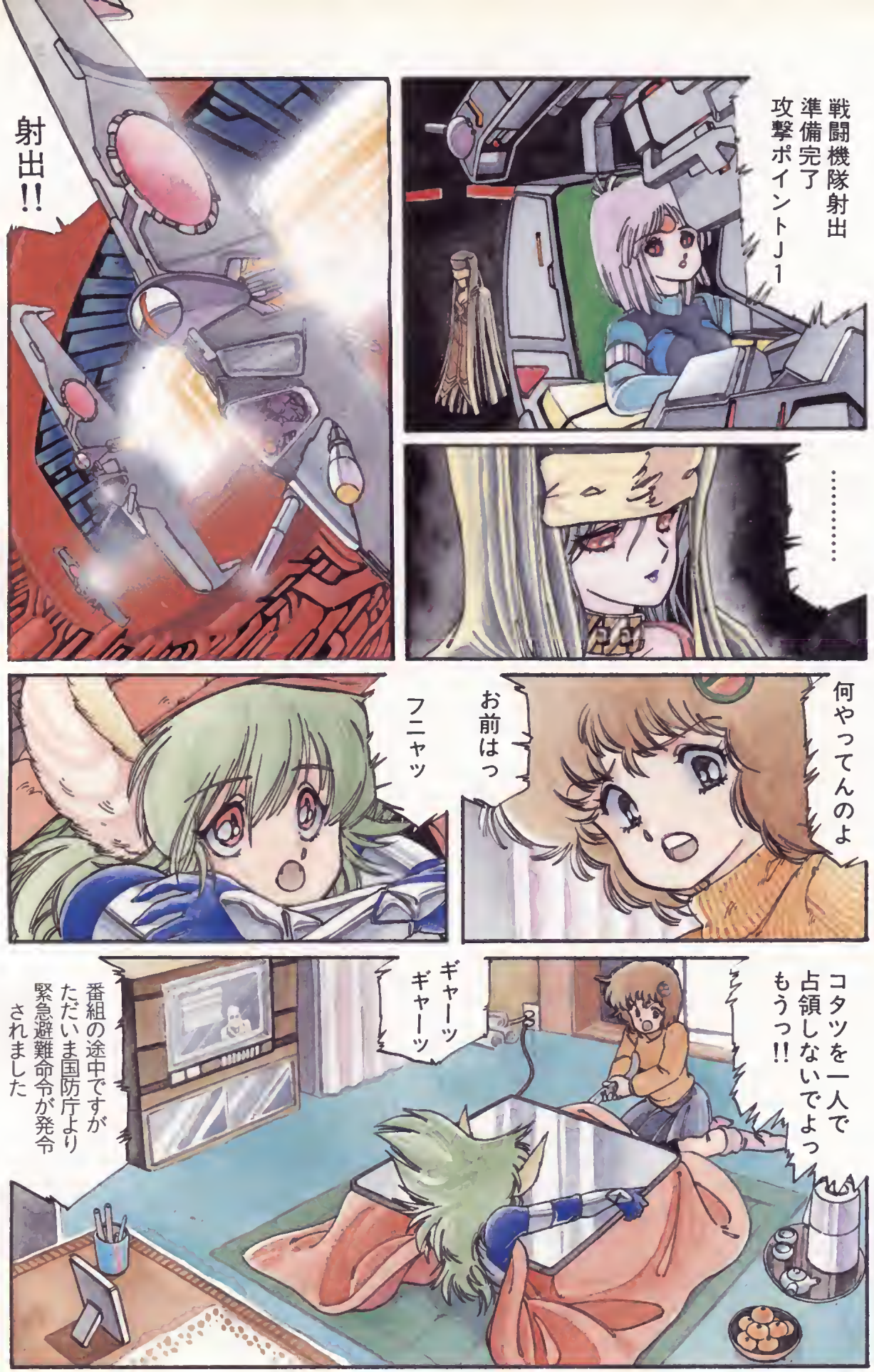

セピア あなたには
感謝しています 兄の
ことを想ってくれて…
でも…かたきは
私の手でうちます


……
私の…兄
ですから


ブルーシャンッ

兄は…あなたを好きに
なれる時間がなかったけど
私の気持ちを言えば…
ステキなお姉さんに
なってほしかった…




戦闘機隊射出
準備完了
攻撃ポイントJ1
射出!!
……
何やってんのよ
お前はっ
フニャッ
コタツを一人で
占領しないでよっ
もうっ!!
ギャーッ
ギャーッ
番組の途中ですが
ただいま国防庁より
緊急避難命令が発令
されました

エッ

宇宙より飛来した物体は
現在東京へ向けて進行中

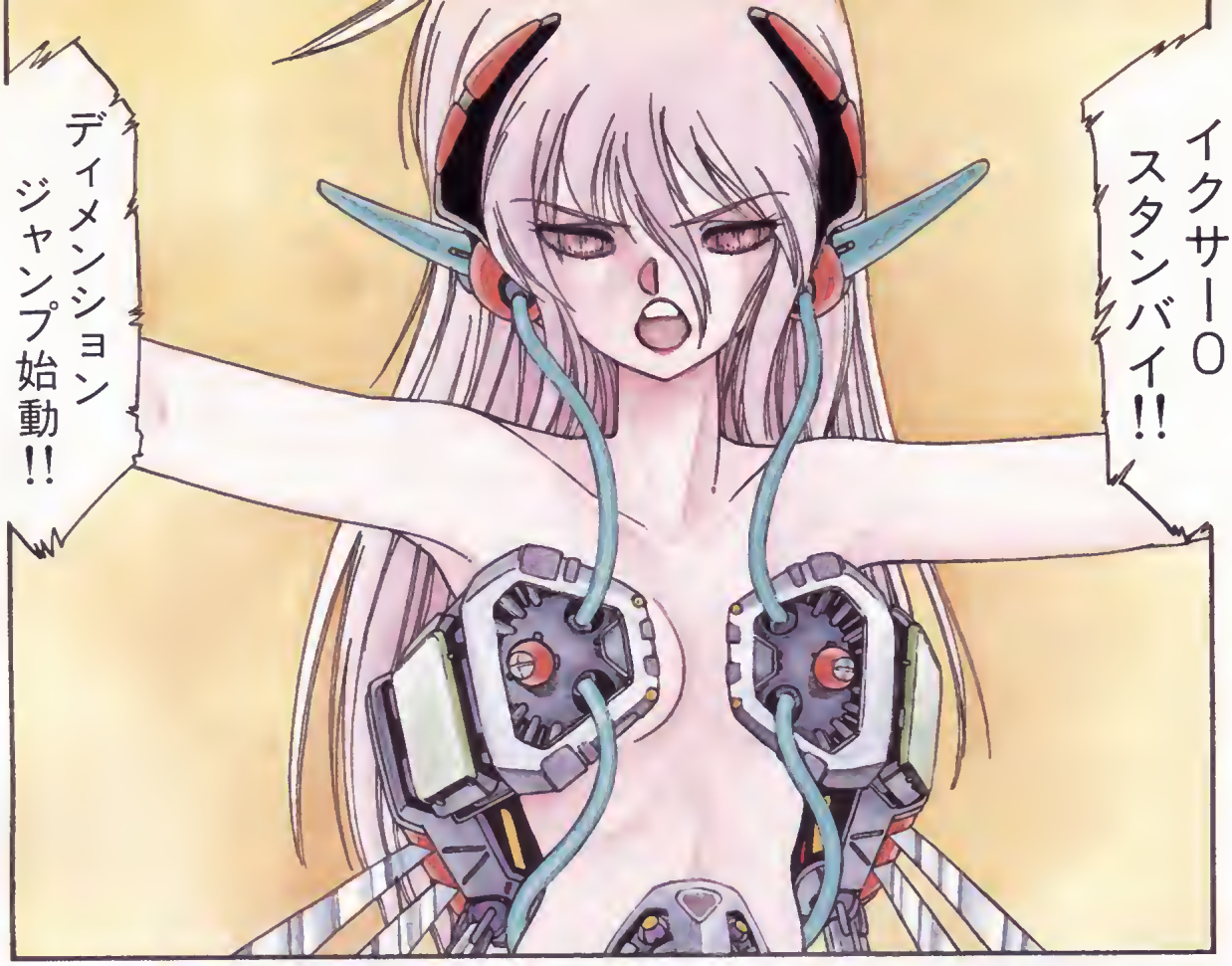
東京近郊の住民は
ただちにひなんして下さい

ニャンッあいつら
また来たわ

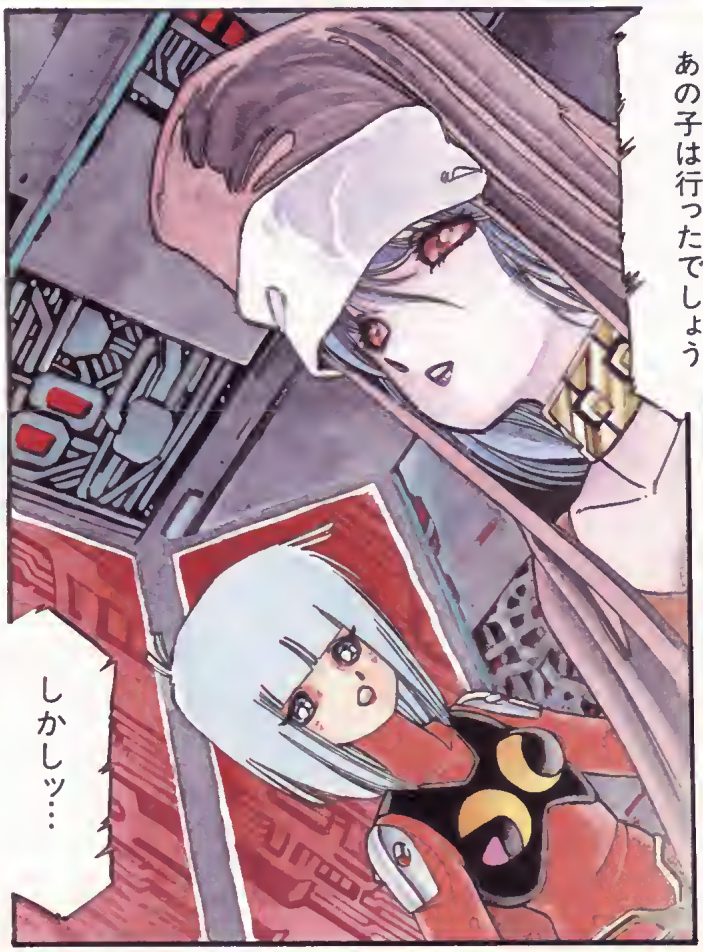
フニャッ

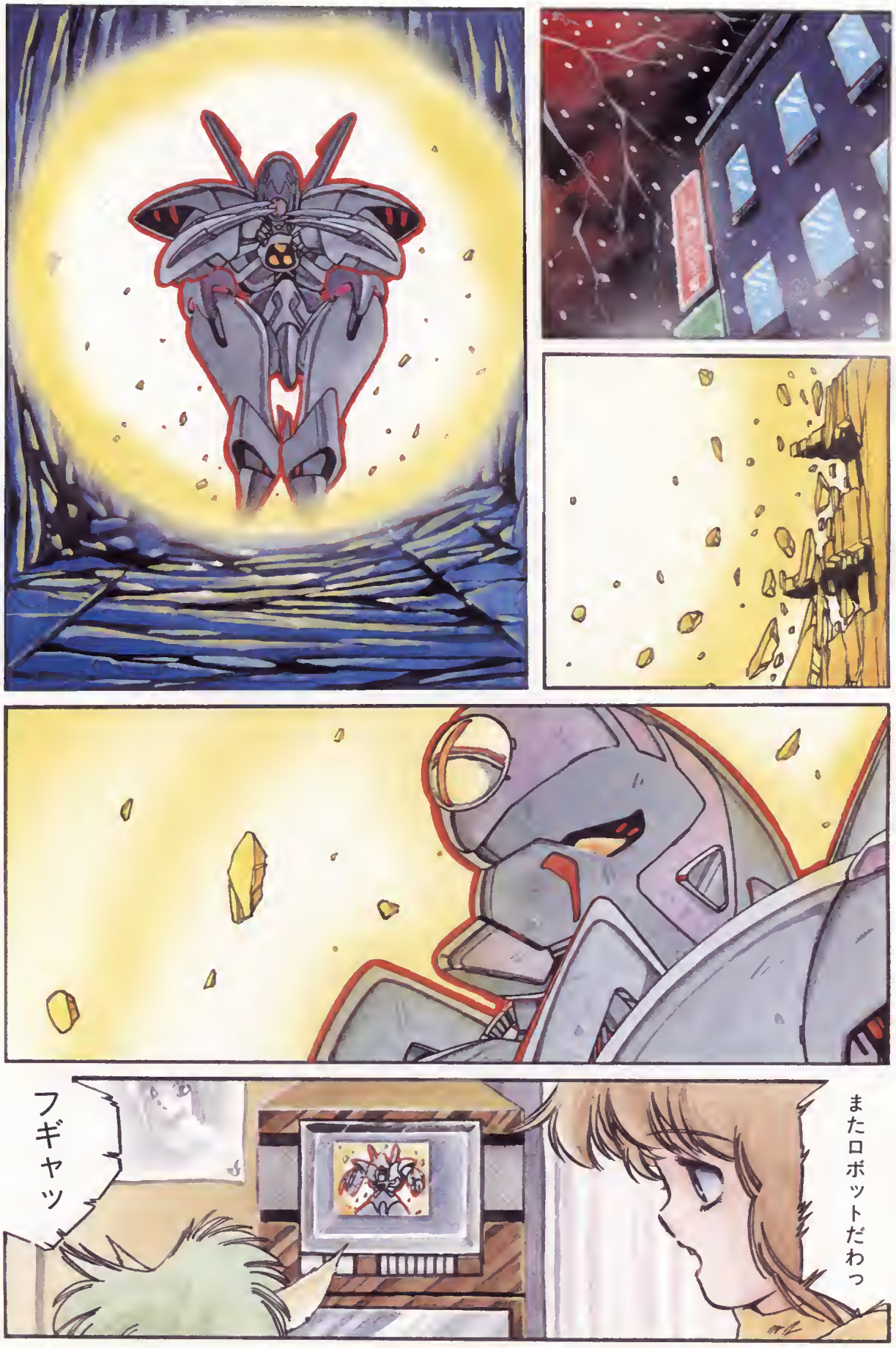
ニャンッたら

!!

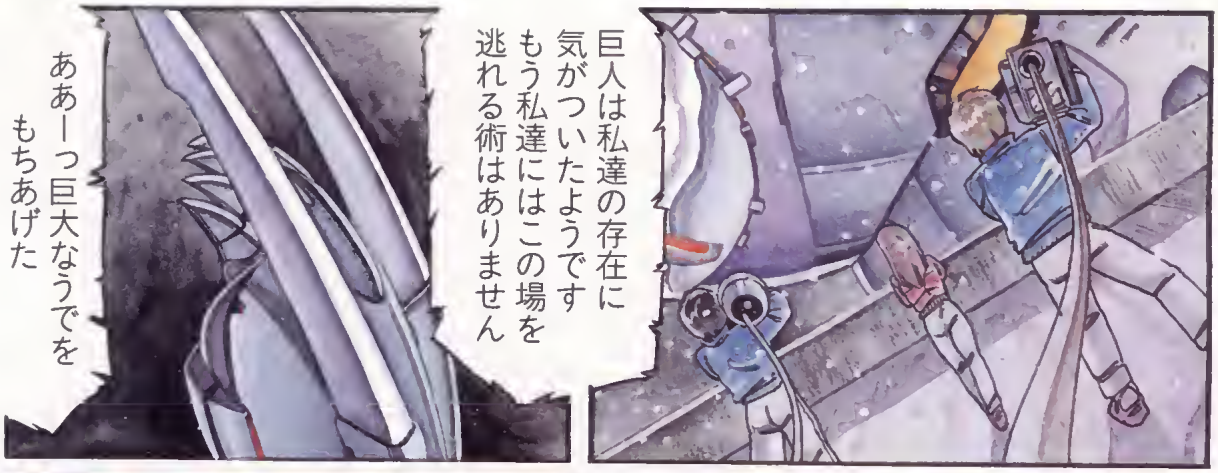

イクサーO
スタンバイ!!
ディメンション
ジャンプ始動!!

なぜですシスターッ
死ぬと分っていてなぜっ

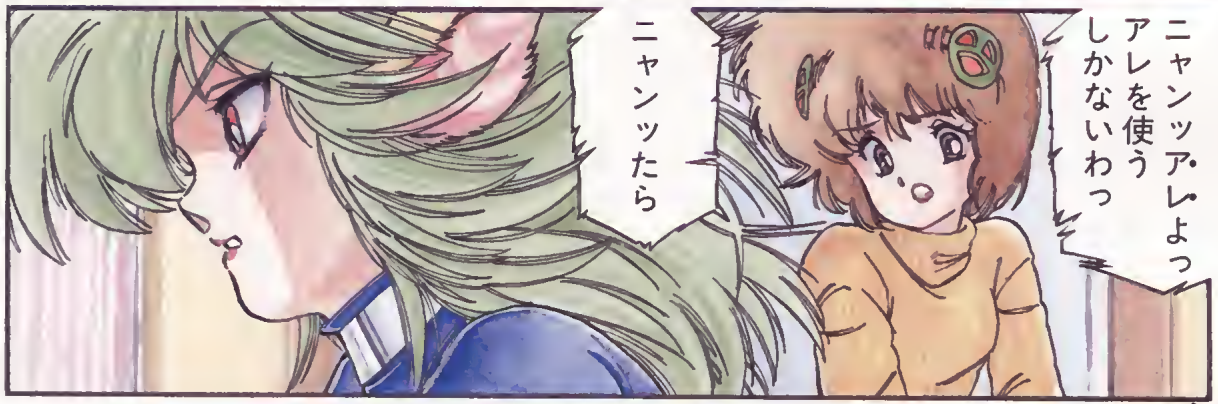

私が許可しなくとも
あの子は行ったでしょう
しかしッ…


またロボットだわっ
フギャッ

イクサーOだッ
エッ
私達は昔このような光景を映画で観た事があります
しかしこれは映画ではありません
今ッ現実に私達の目の前を巨大な物体が歩いているのです

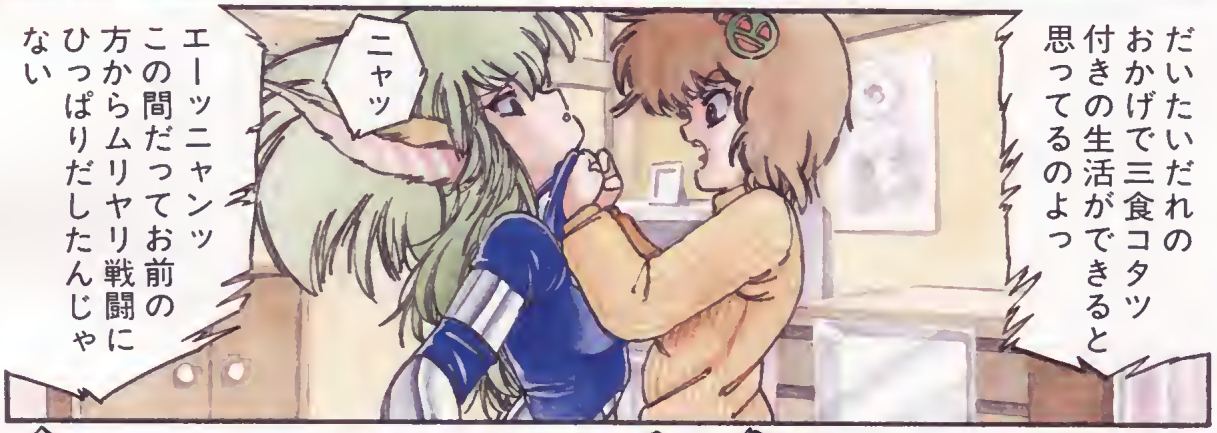

巨人は私達の存在に
気がついたようです
もう私達にはこの場を
逃れる術はありません
ああーっ巨大なうでを
もちあげた

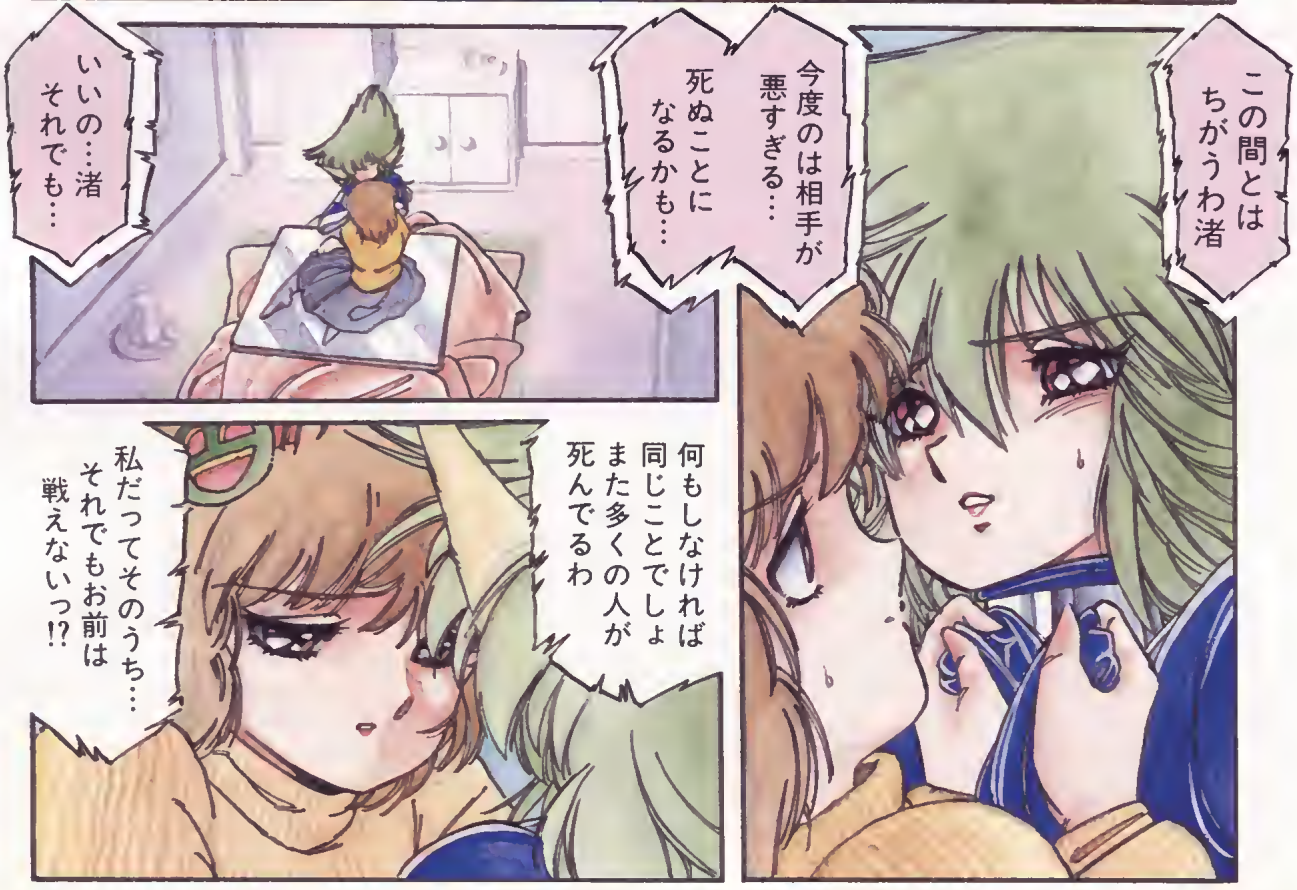
まさに最後の瞬間が
迫っています
もうこれ以上の中継は
不可能です　日本の
みなさんサヨウナラ
サヨ!!……


ニャンッア・レよっ
アレを使う
しかないわっ
ニャンッたら

だめだッ
勝ち目はないっ
なぜよっ
そんなのやって
みなきゃ分ん
ないでしょ

渚とじゃ私の負担が大きすぎるっ
こんな所で命を落とすなんてまっぴらよっ
なっ
何よっその言いぐさわ

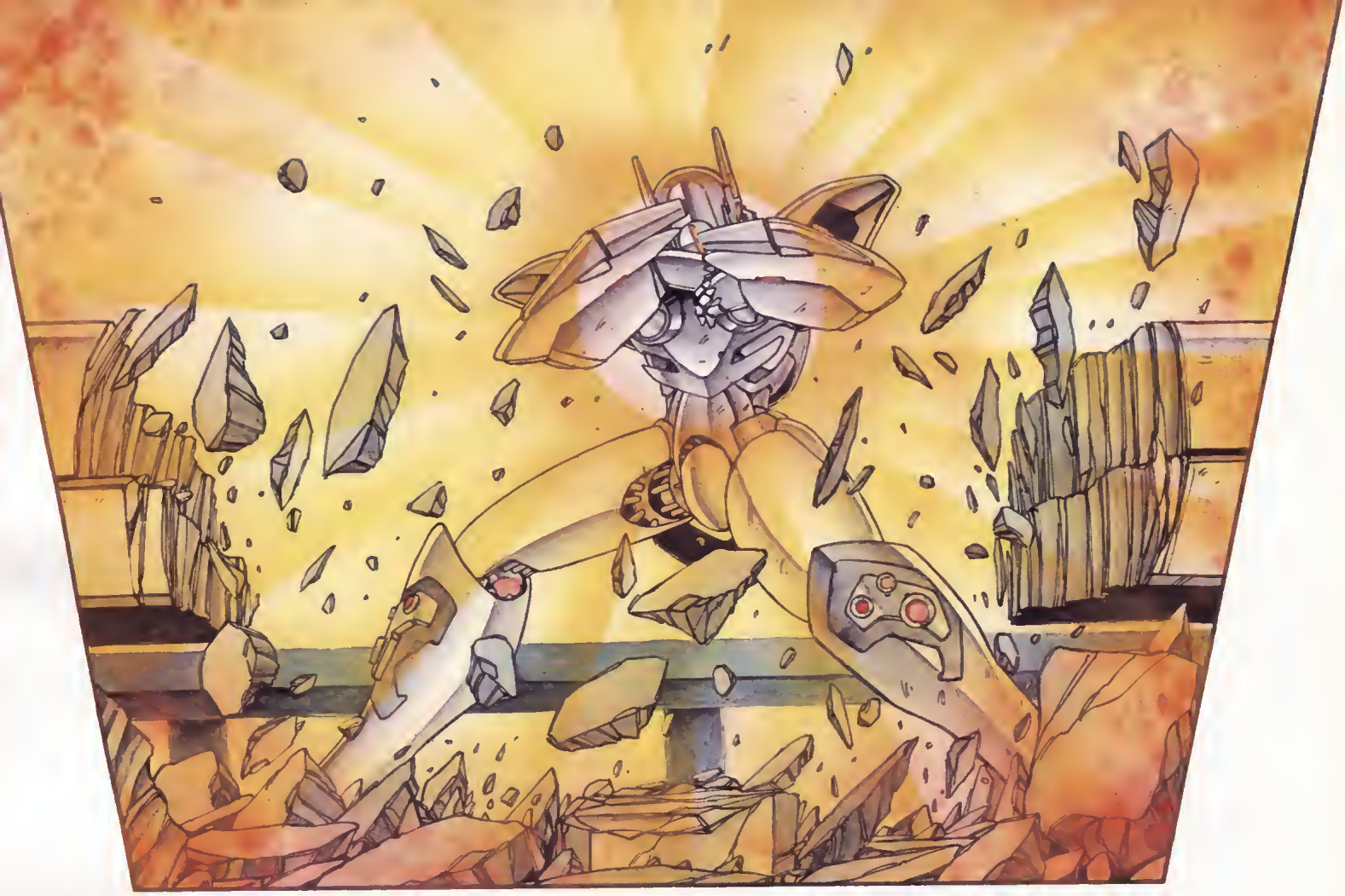

だいたいだれのおかげで三食コタツ付きの生活ができると思ってるのよっ
ニャッ
エーッニャンッこの間だってお前の方からムリヤリ戦闘にひっぱりだしたんじゃない


この間とはちがうわ渚
今度のは相手が悪すぎる…死ぬことになるかも…
いいの…渚それでも…
何もしなければ同じことでしょまた多くの人が死んでるわ
私だってそのうち…それでもお前は戦えないっ!?

お前はそれを横目に
逃げだそうと言うのっ!?
…いいわ
行きなさいっ
そして二度と私の前に現れないでっ
ニャッ
そんな風に言わないで私…行くとこなんかないよ…私…渚のこと好きなの…だからそんな風に…
やるよ…戦う!!でも渚のためよ…他の人なんて関係ないもん
ニャンッ本当にっ私のために戦ってくれるのね
うん
ありがとう…ニャン

出たか
イクサー1!!

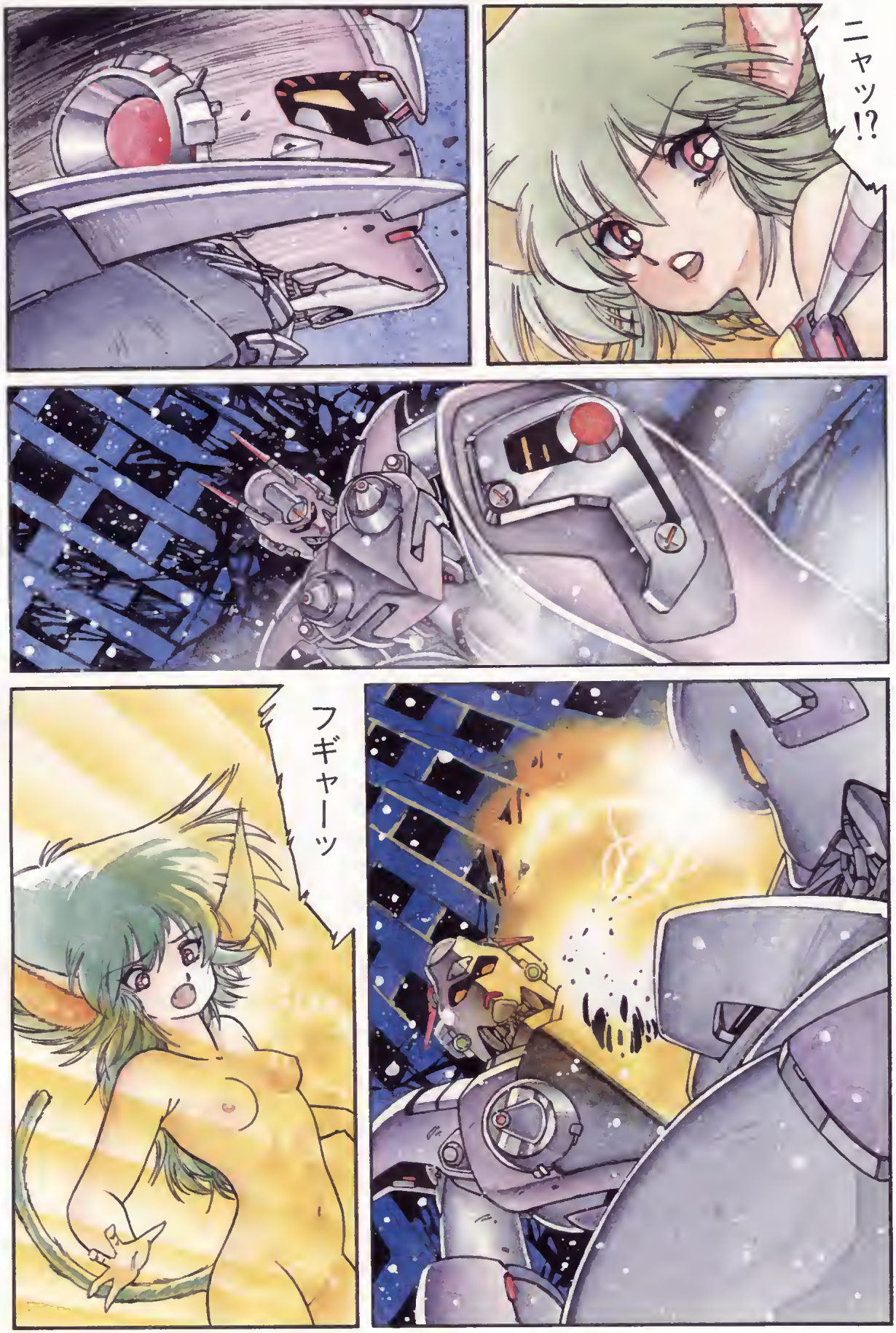
やめなさいっ
あなたも
ここまでよっ
ニャッ
まさかいきなり
つかうなんてっ
やっと出て来たなっ
イクサー1
待っていたぞっ
ギュイイイン
なっ何っ



ハァ
ハァ
シールドされたか
ハァ
ハァ
しかし今のでかなりのダメージをあたえたはずだ

ハァ
セピアじゃないのかこんなムチャするなんて
だとしたらあと一発がエナジーの限界のはずだ
ハァ

もっともこっちもあと一度防げるかどうか
とにかくやるしか渚!! 行くよっ
渚ッ
動きがにぶった
ようしっ


ニャッ!?
フギャーッ

はっ!?
ニャンッ
フー…
フー…
どうだイクサー1
これなら
シールドできまいっ
フィニッシュだ
イクサー1
なっ
何っ
させるかーっ

ばっばかなっ
こんなことがあるはずないっ

消えました
しかしイクサー1も
かなりのダメージを
うけたもようです

そうか
チャンスだな

ただちに次の部隊を
東京へッ!!

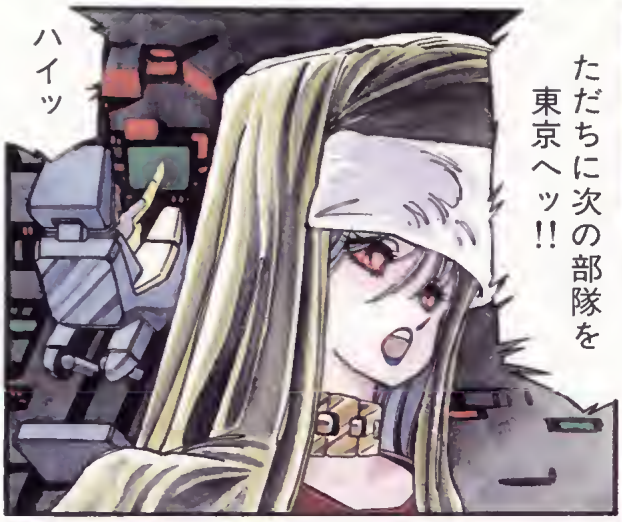
ハイッ

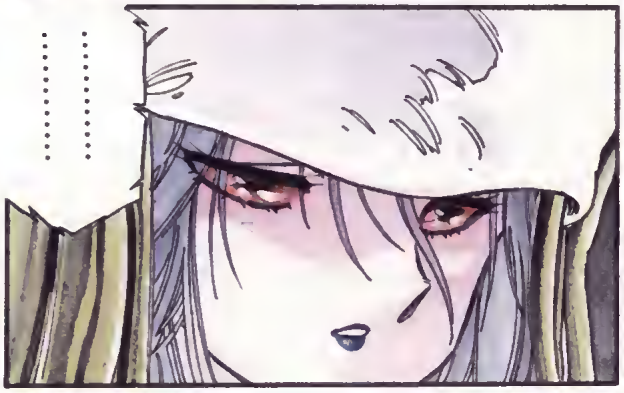
……

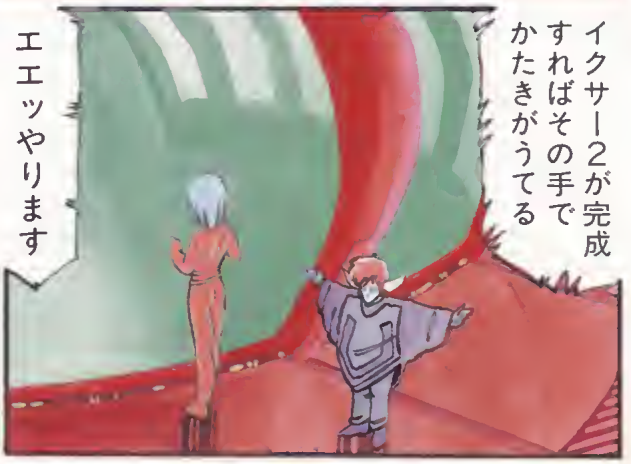
どうしたセピア
具合でも悪いのか

私は愛する
人を二人も
失いました

コバルト…
そしてブルーシャン



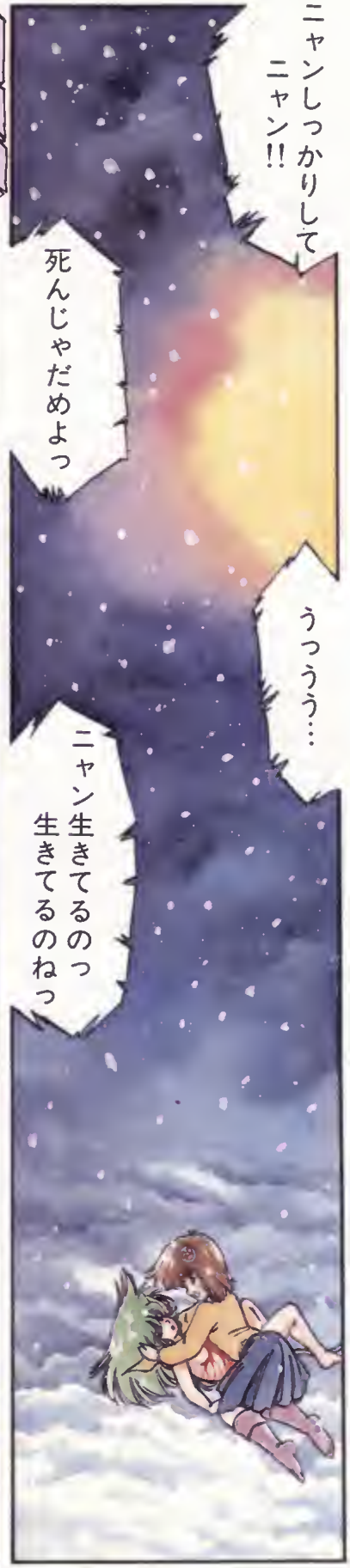




イクサー2が完成
すればその手で
かたきがうてる

エエッやります

必ず!!



●FIGHT!! ICZER-ONE END